

説明文 3			随筆文			詩		説明文 2		
タイムテスト(3)	19 わが子に伝える「絶対語感」(3)	◆活用のある自立語・呼応の副詞	85 ～ 86	16 りんごの涙(3)	◆慣用句	69 ～ 72	タイムテスト(2)	13 空・雑草	◆詩・表現技法	55 ～ 58
	18 わが子に伝える「絶対語感」(2)	◆自立語	77 ～ 80	15 りんごの涙(2)	◆慣用句	65 ～ 68		12 地球環境のしくみ(3)	◆三字熟語の構成・四字熟語の構成	51 ～ 54
	17 わが子に伝える「絶対語感」(1)	★正確な読み	73 ～ 76	14 りんごの涙(1)	★筆者の気持ちをとらえる	61 ～ 64		11 地球環境のしくみ(2)	◆二字熟語の構成	47 ～ 50
									◆段落・文章構成のとらえ方	43 ～ 46

物語文 2			説明文 1			物語文 1			タイトル		
タイムテスト(1)	9 くちぶえ番長(3)	◆文節と文節の関係	41 ～ 42	6 日本の食文化史(3)	◆同音異字・同音異義語・同訓異字	25 ～ 28	1 最後の夏休み(1)	★人物・場面をとらえる	◆ことば・コトバ・言葉	ページ	
	8 くちぶえ番長(2)	◆文の成分	33 ～ 36	5 日本の食文化史(2)	◆漢字の音と訓・二字熟語の読み	21 ～ 24	2 最後の夏休み(2)	◆漢字の成り立ち		学習の記録	
	7 くちぶえ番長(1)	★心情をとらえる	29 ～ 32	4 日本の食文化史(1)	★指示語・接続語	17 ～ 20	3 最後の夏休み(3)	◆漢字の部首		ページ	





★ 文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の二郎たちは、引っこすことになった幼なじみの克ちゃんのお別れ会として、多摩川の源流をたどるキャンプに出かけた。

翌朝四時半に、セツとした目ざまし時計が鳴った。四樹だけはまだよく眠っていたが二郎、克ちゃん、和也、久里は起きた。

きのうの夜、八時半に、四樹といっしょに寝たので、睡眠はじゅうぶんにたっていた。体調が万全なので、二郎はほっとした。今日は、克ちゃんもいっしょに源流の道をたどる最後のチャンスだ。みんなそろって、多摩川のはじまり、水干まで登るのだ。バテてなんかいられない。かなり冷えこんでいるが、天気は晴れだ。まだ梅雨のさなか、ラッキーだった。

克ちゃんが火をおこして、久里がカレースープを作っている間に、二郎と和也で、寝袋を丸めて袋にしまったり、他の荷物を片づけた。五時には、四樹を起こして、カレースープとパンの朝ごはんを食べた。食べている間じゅう、四樹は、いつになく無口だった。

「四樹ちゃん、まだ眠いの？」

と、久里が聞いた。

「ううん。眠くない。なんだかここがズキズキするの。」

と、四樹は緊張したようすで心臓のあたりを押さえた。

食べ終わると、すぐに出発した。今日一日の行程を考えたら、一分もむだにしたくなかった。鍋は水につけておいて、帰ってから洗うことにした。

みな、デイバックを背負っている。中には、雨具、コップ、水とおやつが少し入っているだけだ。が、その少しの荷物も、四樹には持たせないほうがいいと考えて、二郎は自分のデイバックに入れてやった。

④ 四樹がバテたら、今日のいっさいの予定は、狂ってしまう。

キャンプ場の奥から、森の中を二十分くらい歩いたら、車道に出た。さらに、十五分ほど車道を行くと、笠取山の登り口、作場平に着いた。

そこから、山道がはじまる。「源流の道」と呼ばれているコースだ。「わたし、先頭に行く。」

⑤ ⑤ 四樹、久里のあとについていけ。

と二郎がいうと、四樹は緊張した顔で、うなずいた。二郎と克ちゃんと和也が、そのあとからついていく。

川の流れの音を聞きながら、うっそうとした木立の中の、ゆるやかな坂道を登っていった。朝六時過ぎ。まだずいずい。

「チチチチ……」と、鳥の鳴く声が聞こえてくる。

久里は、帰りのことを考えているらしく、けっこう早いペースで登っていく。四樹の、ハアハアという息の音が聞こえてくる。じきに、汗ばんできた。

やがて、十分ほど登ったころ、二本の川が合流している所にぶつかった。久里が地図を見て、

「多摩川の本流は、こっちだよ。」

と、右の支流を指さした。

道は、そこから本流をはなれて、森の中へと続いていく。

「このあとは笠取小屋の近くに行くまで、もう水はないから、ここで飲んでいこう。」

と久里がいつ、休けいした。

(三輪裕子『最後の夏休み』)

\*1 四樹は二郎の妹で、小学一年生の女の子。二郎は、家の事情で、四樹を連れてキャンプに参加した。

\*2 デイバックはハイキングなどに用いる小型のリュックサック。

問一

線①「二郎、克ちゃん、和也、久里は起きた」とありますが、キャンプ場を出発するまでの四人の様子としてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 多摩川のはじまりを見るのが楽しみで、はしゃいでいる。
イ 時間を有効に使うために、てきぱきと行動している。
ウ 余裕をもって行動できなくて、いらいらしている。
エ 計画どおりに行動しなくてはいけないと思ひ、緊張している。

問二

この日の目的地はどこですか。文中から二字で書きぬきなさい。

[ ]

問三

線②「バテてなんかいられない」は、だれの思ひですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 四樹 イ 二郎 ウ 克ちゃん
エ 和也 オ 久里

問四

線③「四樹は、いつになく無口だった」とありますが、それはなぜですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分だけ五時まで寝ていたことを申し訳なく思ったから。
イ 朝早くに起こされて、きげんがよくなかったから。
ウ つかれていたため、口をきく元気がなかったから。
エ 歩き切れるかどうか心配で、緊張していたから。

問五

線④「四樹がバテたら、今日のいっさいの予定は、狂ってしまう」とありますが、二郎たちが予定どおりにいくことを強く願っているのはなぜですか。次の [ ] にあてはまることばを文中から十五字で書きぬきなさい。

今日は、幼なじみのみんながそろって多摩川の [ ] だから。

[ ]

問六

線⑤「四樹、久里のあとについていけ」とありますが、このように二郎が言ったのはなぜですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア これ以上歩かせるのは無理かもしれないと不安になったから。
イ 久里のあとをついていけば登り切れると思ったから。
ウ 少しでも緊張をほぐしてあげたかったから。
エ 四樹のめんどうをみたくなかったから。

問七

この場面から考えて、久里はどんな女の子だとわかりますか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 判断力と行動力があり、みんなをまとめられる女の子。
イ 思いどおりにならないと気がすまない、自分勝手な女の子。
ウ 自分に対して他人に対しても厳しい、気の強い女の子。
エ 弱い人のことには気が回らないが、明るく元気な女の子。



# 物語をつくろう



「ピラミッド」の五文字を頭に置いて、短い物語をつくろう。それができたら、今度は自分の名前で作ってみよう。

きちんとしたお話になっていなくてもかまわないよ。少しぐらいい変なところがあった方が、かえっておもしろいよ。

「ん」で始まる場合は、「ん」の前に一字置いて、二文字が「ん」になるようにするよ。  
〔きんようび〕〔エンジン〕など

- ① あのみく
- ② いおんくんの
- ③ みもとで
- ④ きのわぐまが
- ⑤ れみふあそ

- ⑥ \_\_\_\_\_
- ⑦ \_\_\_\_\_
- ⑧ \_\_\_\_\_
- ⑨ \_\_\_\_\_
- ⑩ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

## 第2回

物語文1

### 最後の夏休み (2)

#### ことば・コトバ・言葉

##### ◆漢字の成り立ち

漢字の成り立ちには、次の四種類があります。

(1) 象形文字……ものの形をかたどったもの。



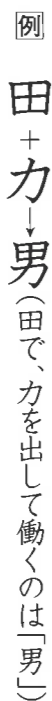
そのほかの例 日・月・川・馬 など

(2) 指事文字……形で表せないものを、点や線の記号で表したものを。



そのほかの例 下・一・二・本 など

(3) 会意文字……いくつかの文字を組み合わせて新しい意味を表したものを。



そのほかの例 林・森・信・岩 など

(4) 形声文字……意味を表す部分と、音を表す部分とを組み合わせて、一つの文字としたもの。漢字のほとんど(九割)が形声文字です。



そのほかの例 花・固・判・忠 など



漢字を書こう。

券
刀 8
ケン
_____
_____
_____

(1) ショウヒンケンを買う。

絹
糸 13
ケン*
きぬ
_____
_____
_____

(2) キヌオリモノの輸出。

座
广 10
ザ
すわる*
_____
_____
_____

(3) セイザをながめる。

宣
宀 9
セン
_____
_____
_____

(4) 商品をセンデンする。

奏
大 9
ソウ
かなでる*
_____
_____
_____

(5) ピアノのドクソウ。

呼
口 8
コ
よぶ
_____
_____
_____

(6) テンコをとる。

困
口 7
コン
こまる
_____
_____
_____

(7) 名前をヨぶ。

困
口 7
コン
こまる
_____
_____
_____

(8) 貧コンにあえぐ人々。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

川は、幅一メートルほどの小さな流れだ。川の縁までおりていくと、空気がAした。

「すぐく水がきれい。」と、久里がいった。

みんなは、澄んだ川の水を飲んだり、顔を洗ったりした。汗をかいていたので、冷たい水が気持ちいい。

和也は水筒を出すと、キャンプ場に入れてきた水を捨てて、川の水を入れた。

「多摩川の子もだね。」と、四樹はいった。

少し休んで、出発した。再び、森の中の道を登っていく。

一休坂に入ったあたりから、道は急になり、四樹のペースが落ちた。少し登っては、立ちどまるようになった。

「歩くのおそくするからね。四樹ちゃん、とまらないで、ゆっくり歩きつづきなさいだめだよ。」と、久里がいった。

まだたいして登っていないうちからバテているようなのが、二郎の気にかかった。笠取山は、最後の登りが、急な山なのだ。

しばらく登った所で、小さな流れを横切った。多摩川の支流の沢だ。そこからは、沢沿いの急な坂道を登っていった。

しだいに暑くなってきた。森の木々の葉の間から、日の光がもれてくる。山に太陽が当たりはじめたのだ。四樹の足が、少しふらつくようになった。それを見て久里が、

「少し休もう。」といった。

二郎がコップをわたすと、四樹はチョロチョロの流れから水をくんで、ごくごく飲んだ。みんなも、次々に飲んだ。

笠取小屋に着いたのは、八時過ぎだった。小屋の前の広場に、テ-

ブルとベンチがいくつか置いてある。

「もう、だめ。」

四樹が、ベンチにぺたんこ座りこんだ。

「もう、歩けない。」と、情けない声でいう。

先を急ぎたいところだけど、また少し休んでいくことにした。こんな所に、四樹だけ置いていくってわけにはいかない。

「ほら、ぼくら、もうこんなに高く登ったんだぜ。」

と、克ちゃんが遠くの山並みを指さした。

山々は、下のほうに見えた。

「水干までは、もうちよつとだよ。」

「多摩川の赤ちゃん、見にいこう。」

和也と久里の言葉に、四樹はこくんとうなずいた。

再び登っていくと、木々がまばらになり、クマザサのおいしげな平らな所に出た。真っ白い入道雲が、Bわきでている。正面には、笠取山の山頂が、こんもりと隆起しているのが見えた。

やがて、笠取山へ行く道と、水干に行く道との分岐に出た。本当なら、あまり暑くないうちに、まっすぐ笠取山の頂上をめざしたいところだ。けれど、まだ四樹に力が残っているうちに、多摩川の最初

の一滴を見せてやったほうがいいと、二郎は思った。今のようすじゃ、

四樹がどこで力つきるかわからない。

久里も克ちゃんも和也も同じ意見だったので、笠取山に行くルート

からはずれ、水干に行くわき道に入っていた。

(三輪裕子「最後の夏休み」)

\*1 隆起 土地などのある部分が高く盛り上がること。

\*2 分岐 (道などの) 分かれめになっている所。

\*3 ルート 道すじ。経路。

問一 A・Bにあてはまることばとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア どんよりと イ ひんやりと ウ もくもくと エ ざわざわと

A B

問二 線①「四樹のペースが落ちた。少し登っては、立ちどまるようになった」とありますが、このあと、四樹の足どりにつかれが見えてきました。そのことがはっきりとわかる一文を文中からさがし、その初めの五字を書きなさい。

\_\_\_\_\_

問三 線②「ほら、ぼくら、もうこんなに高く登ったんだぜ」とありますが、こう言ったときの克ちゃんの気持ちとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア こんなに高い所まで登ってこられたので、もう十分だと満足する気持ち。 イ こんなに高い所まで登ってきたんだと、自分たちのペースの速さにおどろく気持ち。 ウ つかれきってしまった四樹を、少しでもはげましたいという気持ち。 エ 「もう、歩けない。」と情けない声を出した四樹に、いらいらする気持ち。

問四 線③「赤ちゃん」とありますが、ここでは「赤ちゃん」は何を指していますか。文中から五字で書きなさい。

- ア つかれてはいるけれど、もう少しがんばってみよう。 イ もう少し歩けば水干に着くなんて、うれしい。 ウ 早く多摩川の赤ちゃんを見てみたい。 エ 本当にもうちよつとなのか、あやしい。

問五 線④「四樹はこくんとうなずいた」から感じられる四樹の気持ちとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア つかれてはいるけれど、もう少しがんばってみよう。 イ もう少し歩けば水干に着くなんて、うれしい。 ウ 早く多摩川の赤ちゃんを見てみたい。 エ 本当にもうちよつとなのか、あやしい。

問六 線⑤「同じ意見」とありますが、具体的にはどんな意見ですか。文中から三十七字でさがし、その初めと終わりの四字を書きなさい。

問七 この文章では、二郎たちはどんなコースを歩いていますか。次のア〜カから四つを選び、順に記号で答えなさい。

\_\_\_\_\_

- ア 笠取小屋 イ 一休坂 ウ 多摩川の水干 エ 多摩川の水干に行くわき道 オ 笠取山へ行く道と水干に行く道の分岐 カ 笠取山の山頂

\_\_\_\_\_

問七 この文章では、二郎たちはどんなコースを歩いていますか。次のア〜カから四つを選び、順に記号で答えなさい。

- ア 笠取小屋 イ 一休坂 ウ 多摩川の水干 エ 多摩川の水干に行くわき道 オ 笠取山へ行く道と水干に行く道の分岐 カ 笠取山の山頂

\_\_\_\_\_

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字の成り立ちは、あとのア〜エのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- ① 車
- ② 績
- ③ 岩
- ④ 飯

- ⑤ 下
- ⑥ 耳
- ⑦ 中
- ⑧ 明

2 次の漢字は二つの漢字を組み合わせてできた会意文字です。もとの漢字を書きなさい。

- ア 象形文字
- イ 指事文字
- ウ 会意文字
- エ 形声文字

3 次の漢字は形声文字です。①意味を表す部分と②音を表す部分を書きなさい。

- ① 鳴
- ② 男

- ③ 悲
- ④ 草

4 次の漢字と成り立ちが同じものをあとのア〜エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 山
- ② 林

- ③ 上
- ④ 判

- ア 泳
- イ 木
- ウ ニ
- エ 信

第3回

物語文1

最後の夏休み (3)

ことば・コトバ・言葉

漢字の部首

漢字のほとんどはいくつかの部分が組み合わさってできています。その漢字を組み立てている部分のことを部首といいます。部首の種類はたくさんありますが、その位置によって、次の七つにまとめることができます。

によう	たれ	あし	かんむり	へん	つくり	校(きへん)	計(ごんべん)
進(しんによウ)	原(がんだれ)	照(れんが・れつか)	守(うかんむり)	海(さんずい)	部(おおごと)	組(いとへん)	殺(るまた)
起(そうによウ)	広(まだれ)	思(こころ)	空(あなかんむり)	列(りっとう)	顔(おおがい)	区(かくしがまえ)	国(くにがまえ)
建(えんによう)	病(やまいだれ)	盛(せい)	雪(あめかんむり)	間(もんがまえ)			



漢字を書こう。

<b>頂</b> 頁 11 チヨウ いたたく いただき	<b>展</b> 尸 10 テン	<b>承</b> 手 8 シヨウ うひたまわる*	<b>策</b> 竹 12 サク	<b>俳</b> イ 10 ハイ	<b>若</b> 艹 8 ジャク ニヤク* わかいは*	<b>砂</b> 石 9 サ シヤ* すな
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)
富士山のチヨウジヨウ。	町がハッテンする。	その話はシヨウチした。	日本の外交セイサク。	ハイクをつくる。	ワカモノの町。	スナヤマで遊ぶ。
						(1) 磁石でサテツをとる。



例にならって、次のたし算をして、二字の熟語を作ってみましょう。

例 木 + 目 + 言 + 炎 || 相談

(4) 木 + 心 + 相 + 溝	(3) 口 + 竹 + 合 + 門	(2) 周 + 且 + 木 + 言	(1) 女 + 冬 + 糸 + 台
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

文章たんけん

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。  
多摩川の最初の一滴は、土からしみだし、岩をつたってポタツ、ポ  
タツと、したたり落ちていた。上には大きな岩が突き出している。何  
も書いてなければ、見のがしてしまいうるような、ふつうの山の斜面だっ  
た。

けれど、そこには、  
『水干。多摩川の源頭。最初の一滴。東京湾まで138km』  
と書かれた杭が、しっかりと立っている。

「多摩川の赤ちゃんだ。」

それまで、むつとりと歩いていた四樹が、はじめて笑った。

「克ちゃん、ほら。」

といって、二郎は、リュックの中からコップを出してわたした。する  
と、克ちゃんは、

「ううん。」

と首をふって、いった。

「四樹ちゃん、水ためて飲みなよ。」

「そうしなよ。」と、和也もいう。

やっと、多摩川の最初の一滴にたどりついたのだ。だれだって、す  
ぐに飲んでみたい。でも、みんなはその役を、四樹にゆずってくれよ  
うとしていた。

久里までが、笑ってうなずいたのを見て、二郎はコップを四樹にわ  
たした。

四樹は神妙な顔で、水が落ちてくる下にコップを置いた。

一滴ずつたまっていく水を見ていた四樹が、突然目をつぶって、両  
手を合わせた。

「何してんだよ。」と、二郎は聞いた。

「お祈り。」と、四樹が答える。

「神さまってわけじゃないんだぞ。」

と二郎が笑うと、すぐに久里が、

「ううん。ここ水神さまがまつてあるんだって。」

といって、大きな岩の上のほうを指さした。そこには、『水神社』と書  
かれた石板がある。それから、久里は、

「四樹ちゃん、何をお祈りしてるの？」と聞いた。

「またいつか、克ちゃんに会えますように……。」

ちよっとの間、だれも口をきかなかった。やがて、克ちゃんが、

「ぼくが引っこすとこ、この一滴が、ずっと流れていく東京湾のもつ  
よ。」  
と先の、太平洋の海の真ん中にあるんだ。船に乗って、遊びにおいで  
よ。」  
といった。

「うん。」

と四樹はうなずくと、コップに少したまった水を、ごくくと飲んだ。

「おいしい。」

四樹はそういって、笑った。

（三輪裕子『最後の夏休み』）

\*1 源頭 川の最初の一滴が始まる所。

\*2 神妙 不思議な様子。

\*3 ぼくが引っこすとこ 克ちゃんは、東京から南に約百八十キロ  
メートルはなれた所にある伊豆諸島の三宅島に引っこすことに  
なっている。

問一

線①「やっと、多摩川の最初の一滴にたどりついたのだ。  
だれだって、すぐに飲んでみたい」とありますが、「多摩川の最初  
の一滴」をだれがいちばん先に飲むかについて、適当でないもの  
を次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 二郎は、もうすぐ引っこしてしまいうる克ちゃんに飲ませてあげ  
たいと思った。

イ 克ちゃんは、がんばって歩いてきた四樹に飲ませてあげたい  
と思った。

ウ 和也は、克ちゃんの意見に賛成して、四樹に飲ませてあげた  
と思った。

エ 久里は、みんながまんしてまで、四樹に飲ませてあげるの  
はおかしいと思った。

問二

線②「ちよっとの間、だれも口をきかなかった」とありま  
すが、それはなぜだと考えられますか。もつともよいものを次の  
ア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア いくらお祈りしても、もう二度と克ちゃんには会えないと  
思い、悲しくなったから。

イ 四樹のお祈りの内容を聞いて、改めて克ちゃんと別れること  
を思い、さびしくなったから。

ウ 四樹のお祈りによって、多摩川の源頭に着いた喜びがうすれ  
てしまい、腹立たしかったから。

エ 神さまがまつてあるかどうか知らずにお祈りしている四  
樹が、かわいそうだったから。

問三

線③「ぼくが引っこすとこ、この一滴が、ずっと流れてい  
く東京湾のもつと先の、太平洋の海の真ん中にあるんだ」とあり  
ますが、克ちゃんは、みんなにどんなことを伝えたいのだと考え  
られますか。次の□□にあてはまることを文中から九字で書  
きぬきなさい。

□□が流れていく先の太平洋の真ん中に、自分がこれから住  
む島があるのだから、またみんなに会えるということ。

問四

「水干」は、どんな場所ですか。次の□□にあてはまることを  
文中からそれぞれ書きぬきなさい。

一見ふつうの□□だが、□□からしみ

だした水は、岩をつたってしたたり落ちていて、この水が多摩川  
の水となる。また、その上には□□と書かれた石

板があり、□□がまつられている。

問五

「水干」にたどりついて、四樹の心情が変化したことが態度に表  
れていることがわかる一文を文中からさがし、その初めの五字を  
書きぬきなさい。

□□□□□

1 次の部首をもつ漢字をあとのア〜コから選び、記号で答えなさい。

①	のぎへん		②	りつとう	
③	くにがまえ		④	おおざと	
⑤	くさかんむり		⑥	うかんむり	
⑦	ごんべん		⑧	こころ	
⑨	しんにょう		⑩	やまいだれ	

2 次の漢字の部首名をあとのア〜ケから選び、記号で答えなさい。

①	社	②	助	③	店
④	京	⑤	建	⑥	情
⑦	熱	⑧	街	⑨	順

ア りっしんべん    イ なべぶた    ウ しめすへん  
 エ ぎょうがまえ    オ まだれ    カ ちから  
 キ えんにょう    ク おおがい    ケ れっか(れんが)

# 第4回 説明文1 日本の食文化史(1)

## ねらい

### 指示語

指示語とは、「これ・そこ・あの・どっち」などの、物事を指し示すことばで、「こそあどことば」ともいいます。

(1) 指示語の指示内容のとらえ方

指示語の指示内容は、ふつう指示語の前にあります。指示語に近いところから順に前にもどりながらさがしましょう。

(2) 指示語に置きかえられる形にする

ことばの終わりを替えるなどして、指示語にあてはめて文の意味が通じるような形に整える必要がある場合もあります。

### 接続語

接続語とは、語句と語句、文と文、段落と段落などをつなぎ、その関係や意味のつながりを示すことばです。

1 前の内容があとの原因・理由となる(順接) : だから・すると・したがって・それで・そこで など

2 前後の内容が逆になる(逆接) : しかし・でも・ところが など

3 前の内容にあとの内容を並べたり、付け加えたりする(並立・累加) : そして・また・さらに・そのうえ など

4 前後の内容を比べたり、どちらかを選んだりする(対比・選択) : それとも・または・あるいは など

5 前の内容に説明や補いをする(説明) : つまり・なぜなら など

6 前と話題を変える(転換) : さて・ところで・では など



漢字を書け。

背	月 9	ハイケイに山をえがく。	(1)
我	戈 7	ナイカク総理大臣。	(2)
晚	日 12	ワレをわすれる。	(3)
閣	門 14	テッキンの建物。	(4)
筋	竹 12	スジミチの通った考え。	(5)
蒸	艹 13	水分がジヨウハツする。	(6)
並	一 8	五列にナラぶ。	(7)
			(8)

次の(1)・(2)の右側の文字にはつくことができ、左側の文字にはつくことができない漢字の部首は何でしょう。部首名を書きましょう。

(1) 夜にはついて、昼にはつかない!

夜	魚	谷	皮
昼	肉	山	身

答え

(2) 川にはついて、水にはつかない!

川	舌	寺	正
水	口	社	反

答え



★ 文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① アジア原産のイネは、日本型(ジャポニカ種)とインド型(インディカ種)に二大別される。日本型のイネは比較的短い草丈で、低温の気候でもよく成育する。稲粒は短く、まるみをおびており、調理をしたときには粘り気のない食感である。それにたいして、インド型のイネは草丈がながく、熱帯の気候には適応しているが、低温の気候には5よわい。稲粒は細長く、調理をしたとき粘り気がすくなく、ぱさぱさした食感である。

伝統的に日本型のイネが栽培されてきたのは、日本、朝鮮半島、中国の中部である。インド型の分布は中国南部、インド、東南アジアである。インドネシアでは日本型とインド型の中間の性質をもつイネが10おおく栽培される。

\*1 長江流域では、新石器時代に日本型のイネが栽培されていたことがわかっている。この地域の日本型のイネが、古代日本に伝えられたのである。日本の古代において、インド型のイネが栽培されていたことをしめす証拠はない。一一世紀以降になって、インド型のイネが何度15か日本に導入されたが、大規模に栽培されなかった。絶滅した品種をふくめると、日本では約二〇〇〇品種のイネがつけられたが、そのほとんどは日本型である。

栽培地の環境や栽培技術に適應するように、作物の品種の分化がすすんだと説明されるが、味覚や食感もまた重要な要件である。日本人にとつて、インド型の米は「ボロボロした歯触りで、うま味にとぼしく、不快な匂いのする米」とされ、日本型の米にくらべて下等米と評価されてきた。一九世紀後半から人口が急増し、国産の米の生産量で

は追いつかず、中国や東南アジアからインド型の米を輸入したが、このような「外米」は貧乏人の食べる米とされた。

( )、インド型の米が優勢な地域では、日本型の米が下等米とされた。東南アジアに在住する日本のビジネスマンがメイドに日本型の米を市場に買いにやらせると、「あなたは金持ちなのに、どうしてま

ずい米を食べるのか?」といわれるそうだ。

インド型、日本型の別なく、東アジアと東南アジアでは、日常の主食である米飯は、味つけをせず、水だけで料理したプレーン・ライスである。インドから西側のインド型のイネを栽培する地帯でも、プレーン・ライスがないわけではないが、油脂をつかった料理法が主流である。洗米を油脂で炒め、塩や香辛料で味つけをし、しばしば野菜を加えて炊き、ピラフやパエリアとして食べるのである。このような米料理がおこなわれる地域は、乳製品を利用する地域と一致する。牧畜をおこなう地域では乳製品であるバターやバターオイル、地中海圏ではオリブ油を料理に利用することがおおく、そのような料理体系が米の料理にも結合しているのである。

プレーン・ライス地帯である東アジアと東南アジアは非牧畜圏である。米を文字通りの主食として、エネルギーのみならず、主要な蛋白質源ともする食事パターンをもつ地域では、食事のたびに大量の米を胃袋におくりこむ。そのためには味がついていない米飯のほうが、おおく食べることができる。

- \*1 長江川中国最大の川。揚子江の中国での呼称。(石毛直道『日本の食文化史』45)
- \*2 新石器時代II人類文化の最も古い段階である石器時代の終わりのころ。
- \*3 メイドIIお手伝いさん。

問一 線①「アジア原産のイネは、日本型(ジャポニカ種)とインド型(インディカ種)に二大別される」とありますが、この二つのイネの特徴について次のようにまとめました。A~Fにあてはまることばを、それぞれ三字以上五字以内で文中から書きぬきなさい。

・草丈は、インド型はA、日本型はB。  
・栽培において、インド型はCに適しており、日本型はDでもよく成育する。  
・調理したときの食感は、インド型はEしているが、日本型はFがある。

E	C	A			
			F	D	B

問二 線②「この地域」とはどこですか。文中から四字で書きぬきなさい。

--

問三 線③「そのほとんど」とありますが、何のほとんどということですか。文中のことばを使って十五字以上二十字以内で答えなさい。


問四 線④「このような『外米』は貧乏人の食べる米」とされた」とありますが、その理由としてもっともよいものを次のア~エから選び、記号で答えなさい。

--

- ア 外米は日本人にとってまずいと評価される味や食感だから。
- イ 中国や東南アジアから輸入した外米はとても安いから。
- ウ 外米は高級な国産の米を買えない人のために輸入したから。
- エ 外米は生産量を増やすために新たにつくられた品種だから。

問五 ( )にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア~エから選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ しかし
- ウ さらに エ または

--

問六 線⑤「このような米料理がおこなわれる地域」について述べたものとしてあてはまらないものを次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 米飯は味つけをせず、水だけで料理することが主流である。
- イ 洗米を油脂で炒め、塩や香辛料などで味付けをして食べる。
- ウ 牧畜がおこなわれ、乳製品が料理に利用される地域である。
- エ オリブ油を料理に利用することがおおい。

--



# わたしは○○です

絵にかかれたものの中から一つ選んで、それになったつもりで自己しよいかいの作文を書こう。



Vertical dashed lines for writing a composition.

## 第5回

説明文1

# 日本の食文化史 (2)



## じとば・コトバ・言葉

### 漢字の音と訓

(1) 音……漢字の音は、中国の発音をもとにした日本の読み方です。伝わった時代などによって、次の三種類の音があります。

例 行 漢音||コウ (行動・実行など)  
唐音||アン (行宮など)

(2) 訓……漢字の意味にあたる日本語をあてはめた読み方です。訓をもたない漢字も、複数の訓をもつ漢字もあります。

例 校 音コウ  
訓 校 訓 ひらく・ひらける・あく・あける  
\*国字……日本で作られた漢字です。ふつうは訓だけですが、音のある漢字もあります。

### 二字熟語の読み

全体を音か訓のどちらかで読むのがふつうですが、次のような例外の読み方もあります。

●重箱読み……「重箱」のように、上を音、下を訓で読む読み方です。

例 台所・新芽・歩合・幕内

●湯桶読み……「湯桶」のように、上を訓、下を音で読む読み方です。

例 手本・合図・場所・身分

### 漢字を書こう。

危

口 6  
あぶない  
あやうい\*

(1) 絶めつのキキ。

吸

口 6  
キュウ  
すう

(2) アブない目にあう。

憲

心 16  
ケン

(3) えらでコキュウする。

舌

舌 6  
ゼツ\*  
した

(4) 日本国ケンポウ。

段

交 9  
ダン

(5) シタをやけどする。

痛

疒 12  
ツウ  
いた  
いたむ

(6) カイダンをのぼる。

拡

扌 8  
カク

(7) 頭がイタイ。

(8) 設備をカクチョウする。



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

明治時代に外国の料理が伝わってきて、「日本料理は目で楽しむ、西洋料理は鼻で食べ、中国料理は舌で味わう」といわれた。日本料理は美しく盛りつけることに特徴があり、西洋料理の特徴はスパイスやハーブの香りであり、中国料理はおいしい食味をつくり出す技術に優れているというのである。

日本料理の盛りつけの美は、世界でも知られている。しかし、美しい食器を使用して、手のこんだ盛りつけで「見せる料理」をつくるのは、家庭ではなく日本料理店でのことである。見せる料理とは、食べものに美的な価値を付加したものである。それは視覚という官能を楽しませるが、なんといっても食事の第一義は満腹感と、味覚や嗅覚の官能を充足させることにある。日常の家庭料理では、食事の楽しみの第一義をつくりだすのに精いっぱい、視覚の楽しみまではなかなか手がまわらない。

世界中どこでも、見せる料理をつくることに精力をそそぐのは、レストランや宮廷、貴族の館などで働く職業的料理人たちであった。フランスの高級料理では、一九世紀に宴会用の装飾的料理の流行が頂点を極め、その後は盛りつけが簡素化する方向にむかったといわれる。一九世紀の豪華な宴会に供されたフランス料理の図鑑を見ると、きわめて建築的な構成をとることがおおく、食卓の上にパルテノン神殿やピラミッドを引っ越してきてきたようなものもある。プラットホームや階段状の台をつくり、そのうえに料理を配置したりしたが、皿のうえの料理の盛りつけは、幾何学的で対称形を基本としている。他のヨーロッパ料理の盛りつけも、おなじく対称形の原則にたがわれない。

ヨーロッパの庭園は幾何学的で、対称形に配置された建築的な造園

法であり、人工的な構成を重視することによって調和の美を創造しようとする。それにはたいして、日本庭園は非幾何学的、非対称形であり、風景的な庭をつくる。

日本の伝統的な美学では、一般に対称形や幾何学的造形は、あまりにも人工的であるとして避けられる傾向がよい。抽象化した自然を表現するのが日本庭園であり、自然というものは本来アンバランスな存在であるので、造園にさいして直線、円、立方体などの幾何学的構成や対称形は採用しないのである。

日本庭園の哲学を食卓のうえに実現しようとしたのが、江戸時代後半以後の高級な日本料理であった。( )、このころから料理を山水に盛ることが流行する。人物画、花鳥画、山水画が東洋画の三大部門とされる。日本庭園は山と水の流れや池のモチーフから構成されるのが普通である。山水を登場させることによって、自然景観を象徴したのである。

山水の盛りつけを刺身に適用するには、食べる者から見たときに、皿の奥にあたる位置に刺身の「つま」をうずたかく山型に盛りあげ、そこに樹木を象徴する緑色をしたシソの葉など野菜の小片をあしらう。皿の手前には薄切りにした生魚が、水の波をかたどるようにならべられるのである。(石毛直道『日本の食文化史』)

- \*1 食味Ⅱ食べたときの味わい。
\*2 官能Ⅱ人間の感覚器官(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)の働き。
\*3 第一義Ⅱ最も大切な根本的な意義、または価値。
\*4 幾何学的Ⅱ形状や図案が法則的・規則的であるさま。
\*5 抽象化Ⅱいくつかの物事に共通なものをぬきだし通用させること。
\*6 アンバランスⅡつりあいがとれていないこと。
\*7 哲学Ⅱここでは、基本となる考え方のこと。
\*8 モチーフⅡ創作のきっかけや目的となる中心的な題材。

問一 線①「西洋料理は鼻で食べる」、②「中国料理は舌で味わう」とありますが、これはどんなことを指しているのですか。次の□にあてはまることばを、文中から①は十一字、②は十二字で書きぬきなさい。

- ① 西洋料理は□ を楽しむという特徴があること。
② 中国料理は□ 技術に優れているという特徴があること。

Two grids for question 1. Grid 1: 11 boxes. Grid 2: 12 boxes.

問二 線③「それ」の指していることばを文中から五字で書きぬきなさい。

Grid for question 2: 5 boxes.

問三 線④「フランスの高級料理では、一九世紀に宴会用の装飾的料理の流行が頂点を極め」とありますが、このころの「装飾的料理」の盛りつけの例が述べられている部分を、文中からひと続きの二文でさがし、その初めの七字を書きぬきなさい。

Grid for question 3: 7 boxes.

問四 線⑤「それにはたいして」とありますが、ここでは何について比較して述べているのですか。次の□□にあてはまることばを

文中から書きぬきなさい。
ヨーロッパと日本の□ のちがひ。

問五 ( ) にあてはまることばとしてもっともよいものを次のアから選び、記号で答えなさい。
ア すると イ さらに ウ つまり エ たとえば

問六 線⑥「そこ」とはどこですか。もっともよいものを次のアから選び、記号で答えなさい。

- ア 刺身を食べる者が座っている位置。
イ 食べる者から見たときの皿の奥。
ウ 皿の奥に盛りつけられた刺身の上。
エ 刺身のつまを山型に盛りあげた所。

問七 この文章の内容と合っているものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 見せる料理とは食べものに美的な価値を付加したもので、高級な日本料理にも家庭料理にも共通した特徴である。
イ 幾何学的で対称形を基本とした料理の盛りつけ方法は、フランス料理の職業的料理人だけに見られる特徴である。
ウ 見せる料理に精力をそそぐ世界中の職業的料理人たちの盛りつけの基本は、自然景観を象徴することにある。
エ 日本料理の盛りつけの美は、抽象化した自然を表現する日本庭園の考え方を食卓のうえに実現させたものである。

ことば・コトバ・言葉

1 次の各組の線部の漢字の中から、ほかとは読み方のちがうもの一つずつを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① ア 平均    イ 平等    ウ 平然    エ 平和
- ② ア 行事    イ 行動    ウ 旅行    エ 銀行
- ③ ア 作文    イ 工作    ウ 作業    エ 作品

2 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。

- ① ア 日本に生まれる。    ア
- ② ア 重い石。    ア
- ③ ア 冷たい氷。    ア
- イ 氷で冷やす。    イ

3 次の説明にあてはまる熟語をあとのア〜クからあるだけ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 上下とも音で読む熟語    ② 上下とも訓で読む熟語
  - ③ 重箱読みをする熟語    ④ 湯桶読みをする熟語
- ア 学習    イ 駅前    ウ 花火    エ 研究    オ 手紙  
 カ 荷物    キ 台所    ク 雨具

説明文1

第6回

日本の食文化史 (3)

ことば・コトバ・言葉

◆同音異字

同じ音をもつ異なる漢字を同音異字といいます。漢字には同音異字がたくさんあるので、訓読みを参考にして字の意味で使い分けるようにします。特に、字の形が似ているものには注意が必要です。

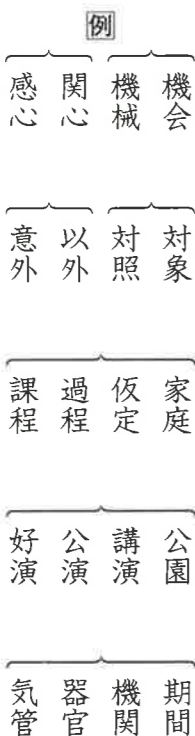
例 「シン」と読む漢字……心・申・臣・身・信・神・真・針・深・

進・森・新・親 など

↓「新」と「親」は形が似ているので注意が必要

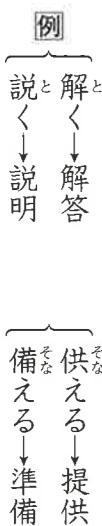
◆同音異義語

同じ音で意味が異なる語のことを同音異義語といいます。同音異義語は、熟語を構成する漢字一字一字の意味と、熟語そのものの意味をよく理解して使い分けが必要です。



◆同訓異字

同じ訓をもつ異なる漢字を同訓異字といいます。その漢字の音を使って熟語を作ってみると、ちがいがよくわかります。



漢字を書こう。

射 寸 10 いる	誌 言 14 シ	乱 し 7 みだれる	窓 穴 11 ソウ	収 又 4 おさめる	権 木 15 ケン
(8) 光がハンシャする。	(7) 科学ザッシを読む。	(6) 心がミダれる。	(5) 頭がコンランする。	(4) シヤソウからの風景。	(3) 勝利をオサめる。
				(2) シュウニユウと支出。	(1) ケンリと義務。



第1回たんていクラブ開さい

西は「け」

一4    二2    七1    一4    五5  
 二5    一3    一4    ン    五5  
 六3    ン    三3    一2    五5  
 七1    一4

に集まれ!

「西」は「ニ4」のことだな。



友だちから次のようなメモが回ってきました。さて、どこへ行けばよいのでしょうか。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中国では偶数が尊ばれるため、対称形の盛りつけが好まれる。が、日本では奇数が好まれる。したがって、三個、五個、七個といった奇数では、ある食べものを食器に配置するとき、対称形にすることができない。テーブルをとりかこんで食事をする中国やヨーロッパでは、すべての方向からの視線を意識した対称形の盛りつけが好まれる。

庭園に面した家屋の特定場所からながめたときに、もともと美しく見えるように日本の庭園は設計されている。おなじように、伝統的な高級日本料理の盛りつけは、一方からだけの視線を前提としている。一人前の膳の前に座った人物が、上方から見おろす視線である。

日本料理に使用する陶磁器製の食器には、非対称形をしたさまざまな形のものがあつる。世界でいちばん多様な食器を使用するのが高級日本料理である。それらの食器は、使用時にどちらを正面として膳のうえに置くかを考えて製作されており、器もまた一方向からの視線を前提としている。

日本料理の食器には、日本画風の絵が描かれていることがおおいが、食べる者がその絵を鑑賞するのにもっとも適した位置に食器を置き、絵が正面にくるように食器をもちあげて食べるのが正しいマナーとされている。小さな膳のうえに、ミニチュアの日本庭園をつくろうとするのが、伝統的な高級日本料理の美学なのである。

日本文化は季節性を重視する特徴をもっている。世界でいちばん短い定型詩である俳句は、一七文字のなかに、かならず季節を象徴する言葉である「季語」をいれなくてはならない。そのために各種の「歳時記」が刊行されているが、「歳時記」には、食料や料理をふくむ、日本人の伝統的生活に関係した事柄が、季節に分類して掲載されている。カツオの刺身は初夏、焼いたサンマは秋を象徴する食べものであるというように、日本の食事には季節性の表現が要求される。(A)、献立に季節性を表現するのが料理人の手腕とされている。(B) 料亭では、食料や料理だけではなく、食器でも季節感を表現しなくてはならない。食器の装飾の画題のおおくは花や植物である。(B) 春に供する料理は、その季節が旬の食べものを、春の花や草が描かれた椀や皿に盛るのであって、もし秋の七草の描かれた食器を使用したならば、常識のない店であると非難されるだろう。このような料理の美学は、知識人の教養として普及したもので、料亭とは関係のない民衆の家庭での食事には、あまり縁がなかった。

世界中から食材を輸入し、促成栽培の野菜を日常的に食べるようになった現在では、食材の季節性に関する美学は消滅しかかっている。銘々膳ではなく、ダイニング・テーブルに置かれた大盛りの皿に手をのばす配膳法で、和洋中の料理を供する現在の家庭の食事では、四方正面の対称的な盛りつけが普通になった。それでも、日本料理は伝統的な食器に、ハンバーグは洋皿に、中華麺はラーメン鉢に盛るといった具合に、料理の系統によって食器を使いわけることがおこなわれる。和洋中の食器をそろえた日本の台所は、世界でいちばん食器の種類のおおい家庭の台所となっている。

世界でいちばん食器の種類のおおい家庭の台所となっている。

(石毛直道『日本の食文化史』)

\*1 語彙IIここでは「ことば」という意味。

\*2 促成栽培II野菜や花を普通よりも早く発育させ収穫するため、温室やビニールハウスを利用して栽培する方法。

\*3 銘々膳II食事のとき一人一人に出す、食器や食べものをのせる台。

問一 ( ) A・Bにあてはまることばとしてもっともよいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい

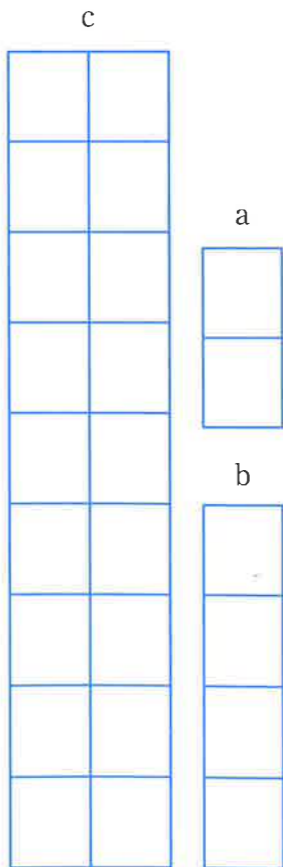
- ア そこで イ ところが ウ あるいは エ たとえば

A [ ] B [ ]

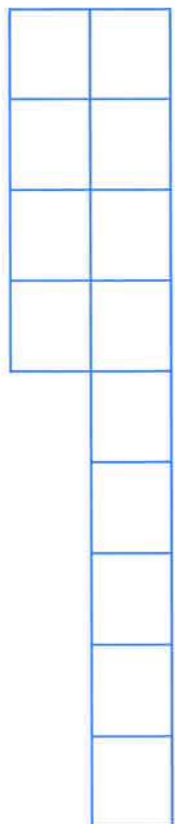
問二 線①「おなじように」とありますが、何と何のどんな点が「おなじ」のですか。次の [ ] aとcにあてはまることばを、

aは二字、bは四字、cは十八字で、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

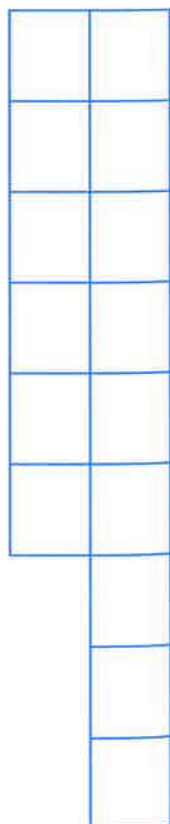
日本の庭園の [ a ] と伝統的な高級日本料理の [ b ] のどちらも、 [ c ] 点。



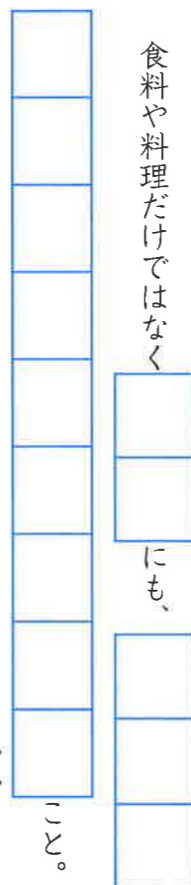
問三 線②「それらの食器」はどんな形をしているのですか。文中から十三字で書きぬきなさい。



問四 線③「その絵」とはどんな絵ですか。文中のことばを使って十五字以内で答えなさい。



問五 線④「このような料理の美学」とありますが、どんなことを指していますか。それを説明した次の [ ] にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。



問六 この文章の内容と合っているものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 伝統的な高級日本料理の美学を料理人が表現するために、「歳時記」には、食料や料理に関係した事柄が掲載されている。
- イ 日本の食器は、すべての方向からの視線を意識した四方正面の対称的な盛りつけをする料理に合わせて製作されている。
- ウ 日本文化の、季節性を重視するという特徴は、料理に関することにおいては、食材の輸入や促成栽培などにより失われつつある。
- エ 和洋中の料理を供する現在の日本の食卓では、四方正面の対称的な盛りつけが普通になり、食器の使いわけもされなくなつた。

ことば・ロトバ・言葉

1 次の線部のかたかなにあたる漢字を、それぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- ① ゆいしよあるケン建築物。
  - (a) ケン康に気をつける。
  - (b) ケン康に気をつける。
- ② 体セキを求める。
  - (a) セキ任感が強い。
  - (b) セキ任感が強い。
  - (c) 成セキがあがる。

ア 績 イ 責 ウ 積

2 次の線部のかたかなを漢字に直すと、あとのア〜ウのどれになりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- ① コウセイの人たちのためにも、自然を大切にしよう。
  - (ア) 公正 イ 厚生 ウ 後世
- ② 日曜日は、校庭をカイホウします。
  - (ア) 開放 イ 解放 ウ 会報
- ③ この本は中学生をタイシヨウとしています。
  - (ア) 対照 イ 対象 ウ 大勝

3 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。

- ① 時間をハカる。
- ② 夜がアける。
- ③ アツいお湯。

物語文2

第7回

くちぶえ番長

(1)

ねらい 心情をとらえる 心情とは気持ちのことです。物語文を読むときは、登場人物の心情をとらえることが大切です。その場合に一番大切なことは、

- ・自分だったらこんなときどんな気持ちになるだろう
- ・こんなことを言われたらどんな気持ちになるだろう
- ・自分がこんなことを言うとしたらそれはどんな気持ちのときだろう

と、その人物になったつもりで気持ちを考えることです。そして、次のような点にも注意して、心情をとらえましょう。

- (1) 直接的な表現をとらえる 「うれしい」「悲しい」「腹を立てる」など、気持ちを直接表した表現をとらえましょう。
- (2) 登場人物の発言に注目する 気持ちを直接言っていないくても、発言からその人の気持ちがわかることがあります。
- (3) 登場人物の行動や様子に注目する 発言だけでなく、行動や様子を表す表現からも、その人の気持ちやうかがうことができます。
- (4) 情景から人物の気持ちを考える 人物ではなく、場面の様子を表したことばからも、人物の気持ちを読み取ることができます。



わかれ道に次のような案内板が立っていました。どう行けば、湖に着くことができるでしょうか。

案内板

あ	み	ん	ぎ	は	あ	い
き	ん	ど	あ	ま	り	ん
ひ	あ	だ	ん	り	あ	は
や	ん	ま	あ	ん	ま	あ
ん	っ	あ	す	ん	ぐ	あ
い	ん	あ	く	と	ん	み
ん	ず	あ	ん	う	あ	み



これで案内しているつもり?

漢字を書こう。

閉	冊	勤	翌	訪	陞	銭
門 11	冂 5	カ 12	羽 11	言 11	冫 10	金 14
とハイ しめする*	サク*	ゴキン つとめる	ヨク	ホウ おとずれる*	ハイ	セン ぜに*
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)
へいはいしきをむかえる。	ベッサツ付録。	けんきう 県庁にツトめている人。	キンロウ感謝の日。	ヨクネンの春まで待つ。	母の実家をタズねる。	てんかう 天皇へイカの誕生日。
(1)						
近くのセントウに行く。						



ことば・ロトバ・言葉

1 次の各文の——線部の文節と文節はどのような関係にありますか。あとのア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 公園で子どもたちが遊んでいる。
- (2) 野球の試合が市民グラウンドで行われた。
- (3) 出かけていた父と母がもどってきた。
- (4) 湖の上をきれいな遊覧船がゆつくりと進む。

- ア 主語・述語の関係
- イ 修飾・被修飾の関係
- ウ 並立の関係
- エ 補助の関係

(1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_

2 次の文について、あとの問いに答えなさい。

- (1) 線①と並立の関係にある文節はどれですか。記号で答えなさい。
- (2) 線②に対して述語にあたる文節はどれですか。記号で答えなさい。

① 明るくて親切な店員が、どうやら、たくさん、いるらしい。

② \_\_\_\_\_

3 次の——線部の文節は、どの文節を修飾していますか。それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 小さな虫が、部屋に入って、きた。
- (2) もっと落ち着きなよ、あせる必要はないから。

(1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_

まとめのふくしゅう

タイムテスト

(1)

月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 得点 \_\_\_\_\_ /100点

1 次の——線部の漢字の読み方を書きなさい。(各2点)

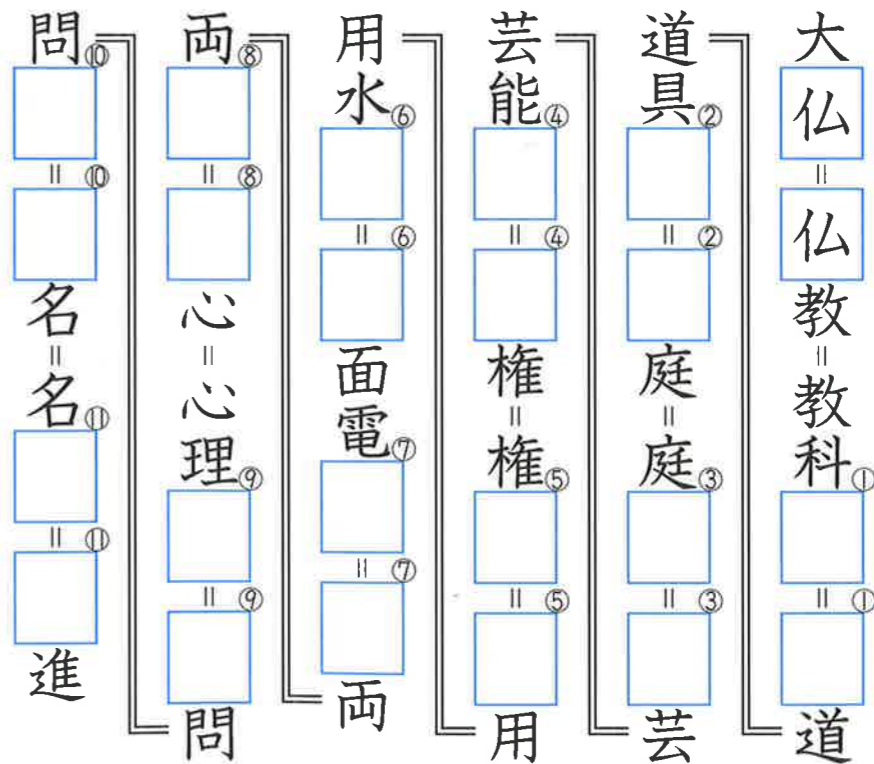
- (1) パラシュートで降下する。
- (2) 同窓会をひらく。
- (3) 権利を主張する。
- (4) 痛快なぼうけん小説。
- (5) 筋道をたてて話をする。
- (6) 激しく泣く。
- (7) 遠足は来週に延びた。
- (8) 山の頂に立つ。

2 次の——線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

- (1) ピアノのエンソウ。
- (2) シンコキュウする。
- (3) 地しんのタイサクを論議する。
- (4) カイマクのベルが鳴る。
- (5) ヒミツの書類を見つけた。
- (6) 夜道はアブない。

習

□に漢字をあてはめて、しりとりをしよう。



3 次の(1)～(4)の説明にあたるものをア～エから、(1)～(4)にあたる漢字を①～④から選び、それぞれ記号で答えなさい。(各1点)

- (1) 形声文字
- (2) 会意文字
- (3) 象形文字
- (4) 指事文字

- ア ものの形をかたどったもの。
- イ いくつかの文字を組み合わせて新しい意味を表したもの。
- ウ 形で表せないものを、点や線の記号で表したもの。
- エ 意味を表す部分と、音を表す部分とを組み合わせて、一つの文字としたもの。

- ① a 雨・耳・鳥
- ② c 河・時・清

- ③ b 男・明・多
- ④ d 中・二・下

(1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_

**4** 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。  
 (6) 老 空  
 (7) 郡 厚  
 (8) 建 独  
 (9) 無 属  
 (10) 衛 額

(各2点)

**6** 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。

(各1点)

(1) ア トンボをオウ。  
 (2) ア バスをオリる。  
 (3) ア すがたをアラワす。  
 (4) ア となりの人とハナす。  
 (5) ア 魚を川にハナす。  
 ア 席にツク。  
 イ だろが服にツク。

**7** 次の各文の線部は、あとのア、イ、ウのどれにあたりますか。それ  
 ぞれ記号で答えなさい。(各3点)

(1) それもたしかにいいね。  
 (2) 雨はやんだ。だが、風はますます強くなってきた。  
 (3) これは、いまできたばかりのパンです。  
 (4) もしもし、田中さんのおたくですか。  
 ア 主語      イ 述語      ウ 修飾語  
 工 接続語      オ 独立語

(各3点)

**5** 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。

(各1点)

(1) ア ラジオのコウ開放送。  
 (2) ア このきつぷは三日間有コウだ。  
 (3) ア 政治団体を組シキする。  
 (4) ア 本を読んで知シキをふやす。  
 (5) ア 誕生会にシヨウ待する。  
 (6) ア 身分シヨウ明書を見せる。  
 (7) ア 魚の消化器カンを観察する。  
 (8) ア 公園のカン理事務所につとめる。  
 (9) ア ハン画をほる。  
 (10) ア ハン断する。  
 (11) ア オウ来に出る。  
 (12) ア オウ来に出る。  
 (13) ア オウ来に出る。  
 (14) ア オウ来に出る。  
 (15) ア オウ来に出る。  
 (16) ア オウ来に出る。

**8** 次の線部のことばはどのことばを修飾していますか。それぞれ  
 記号で答えなさい。(各3点)

(1) あらゆる 国の 人が 集まる。  
 (2) ぜひ、かれの 記録を 破りたい。

第10回

説明文2

地球環境のしくみ (1)



ねらい

**◆段落** 段落とは、一つの意味を作っている、いくつかの文のひとまとまりのことです。前後の段落との関係や、それぞれの段落が文章全体の中でどんな役割を持っているかを考えましょう。段落には次の二つがあります。

(1) **形式段落**…改行が行われるまでのひとまとまりの文章を形式段落といいます。形式段落ごとに、その中心となる文を見つけ、要点をまとめましょう。

(2) **意味段落**…内容のまとまりからみた文章のひと区切りを意味段落といいます。意味段落のほとんどは、いくつかの形式段落が集まってできています。

◆文章構成のとらえ方

説明文の場合、文章は序論(問題提起)、本論(説明)、結論(まとめ)からなっている場合が多く、その展開の順序によって、文章構成は大きく次の三つの型に分類できます。意味段落が、序論、本論、結論のどれにあたるか、どのような順序で展開されているかを考えて、文章構成をとらえましょう。

- (1) **尾括型**…序論→本論→結論という展開で、最も多い型です。
- (2) **頭括型**…結論→本論という展開で、最初に結論が来ます。
- (3) **双括型**…結論→本論→結論という展開で、結論が最初と最後にある場合をいいます。

漢字を書こう。

姿	孝	胃	欲	敵	蔵	骨	劇
女 9	子 7	月 9	欠 11	女 15	艹 15	骨 10	リ 15
シ すがた	コウ	イ	ヨク ほっする* ほしい*	テキ かたき*	ゾウ くら*	コツ ほね	ゲキ
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
スガタを現す。	親にコウコウする。	イがいたい。	イヨクがわく。	キョウテキと戦う。	食料をチヨゾウする。	キコツのある人。	ゲキジョウに行く。



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 みなさんは、海の水が増える、ということがどんなことだか考えたことがあるでしょうか。たとえば海の水が増えて海面が一メートル上がったとしましょう。すると、日本でいえば、日本全体が一メートルしずむのと同じことです。世界中の陸地全体が一メートル低くなるのです。

2 南太平洋にツバルという、総面積二六平方キロ、人口一万人足らずの小さな国があります。テレビで見た人もあるでしょう。この国は、いくつかの小さくて平べったい島からできていて、多くはサンゴ礁の島々です。海はきれいで、島にはヤシの木が茂り、熱帯の楽園のようなどころです。そこで人々は、漁業と観光で生活しています。

3 でも、島のいちばん高いところでも海面から約四メートル、つまり二階建ての建物より低いのです。このように土地が低いために、これから海の水が増えてくると、これらの島には住めなくなってしまう、つまり国がなくなってしまうのでは、と恐れられています。

4 問題はツバルだけにはかぎりません。太平洋やインド洋には似たようなサンゴ礁の島がたくさんあります。また、バングラデシュでは、海面が一メートル上がっただけで、国の水田の半分がなくなってしまうといわれています。

5 日本でも、海岸沿いに、東京や大阪などの大都市や、工場地帯がひろがっています。一メートル海面が上がると、満潮時に海面より低いところに住むことになってしまふ人は四〇〇万人をこえるのです。

6 また、世界でも、米国のニューヨークなど、海岸沿いに大都市がある国が多いのです。中国で最大の都市である上海も、海面が一メートル上がっただけで、市街地の三分の一が水につかってしまふいます。

7 海の水が増える原因は地球が温暖化することです。温暖化すると、南極や北極の陸地の上にある雪や氷が溶けて、海の水が増えるのです。

8 南極のまわりや北極海に浮いている氷山も溶けます。しかし、コップに水と氷を入れて溶かしてみればわかるように、水に浮いている氷が溶けても、その水の体積は水中に沈んでいた氷の体積と同じなので、水面の高さは変わりません。つまり氷山が溶けても、海水面が高くなるわけはありません。

9 では、なぜ、どうやって、二酸化炭素のせいで地球が温暖化するのでしょうか。

10 花や野菜を作る温室は、屋根がガラスや透明なビニールになっていて、太陽のエネルギーを温室の中に取りこむのですが、一方、ガラスやビニールが温室から外へ逃げようとする温まった空気をとじこめてしまふので、温室の中の温度が上がるしくみです。

11 地球の場合には、二酸化炭素というガスと水蒸気が温室のガラスやビニールの役目をして、太陽から来たエネルギーによって地球にできた熱を閉じこめてしまふいます。こうして、地球の温度が上がるのです。やかんやなべがだんだん冷えていくのと同じように、地球からも、どんどん熱が逃げていっています。このときに、二酸化炭素と水蒸気が地表から逃げていく熱(赤外線)を吸収したり、吸収した熱をふたたび放出して地表にもとすのです。

13 こうしてみると、温室のビニールやガラスは、温まった空気と冷たい空気がまざるのをふさいでいるのですから、この地球に起こっていることは、厳密に言えばちがう現象です。しかし、熱の逃げるのをふせぐという意味で、地球温暖化はよく、温室にたとえられるのです。

14 いま、地球全体の二酸化炭素が増えてきています。工場や、発電所や、自動車からはき出されている二酸化炭素は年々、増えつづけています。

(島村英紀「地球環境のしくみ」50)

問一 線①「海の水が増える」とありますが、海の水が増えるのはなぜですか。次の□□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

Diagram showing a vertical stack of boxes for question 1. The text '海に流れ出すから。' is written to the left of the boxes. The boxes are intended for the student to write the reasons for sea level rise.

問二 線②「南太平洋にツバルという...小さな国があります」とありますが、ツバル以外で、海の水が増えることによって深刻な影響を受ける国や地域について、具体的に説明している段落は何段落から何段落までですか。段落番号で答えなさい。

Diagram showing a vertical stack of boxes for question 2. The text '段落' is written to the right of the boxes. The boxes are intended for the student to write the paragraph numbers.

問三 □□にあてはまることばとしてもっともよいものを次のアウエから選び、記号で答えなさい。

- ア だから
イ そのうえ
ウ でも
エ なぜなら

問四 線③「地球温暖化はよく、温室にたとえられる」とありますが、地球温暖化を温室にたとえるとき、二酸化炭素は次のどれにあたりますか。もっともよいものを次のアウエから選び、記号で答えなさい。

- ア 温室の中の花や野菜
イ 温室のガラスやビニール
ウ 太陽のエネルギー
エ 太陽のエネルギーによって地球にできた熱

問五 この文章を、内容のうえから次のように二つの意味段落に分けるとすると、後半はどこからになりますか。後半の初めの段落を段落番号で答えなさい。

前半：海の水が増えることによる影響と、海の水が増える原因。
後半：二酸化炭素による地球の温暖化。

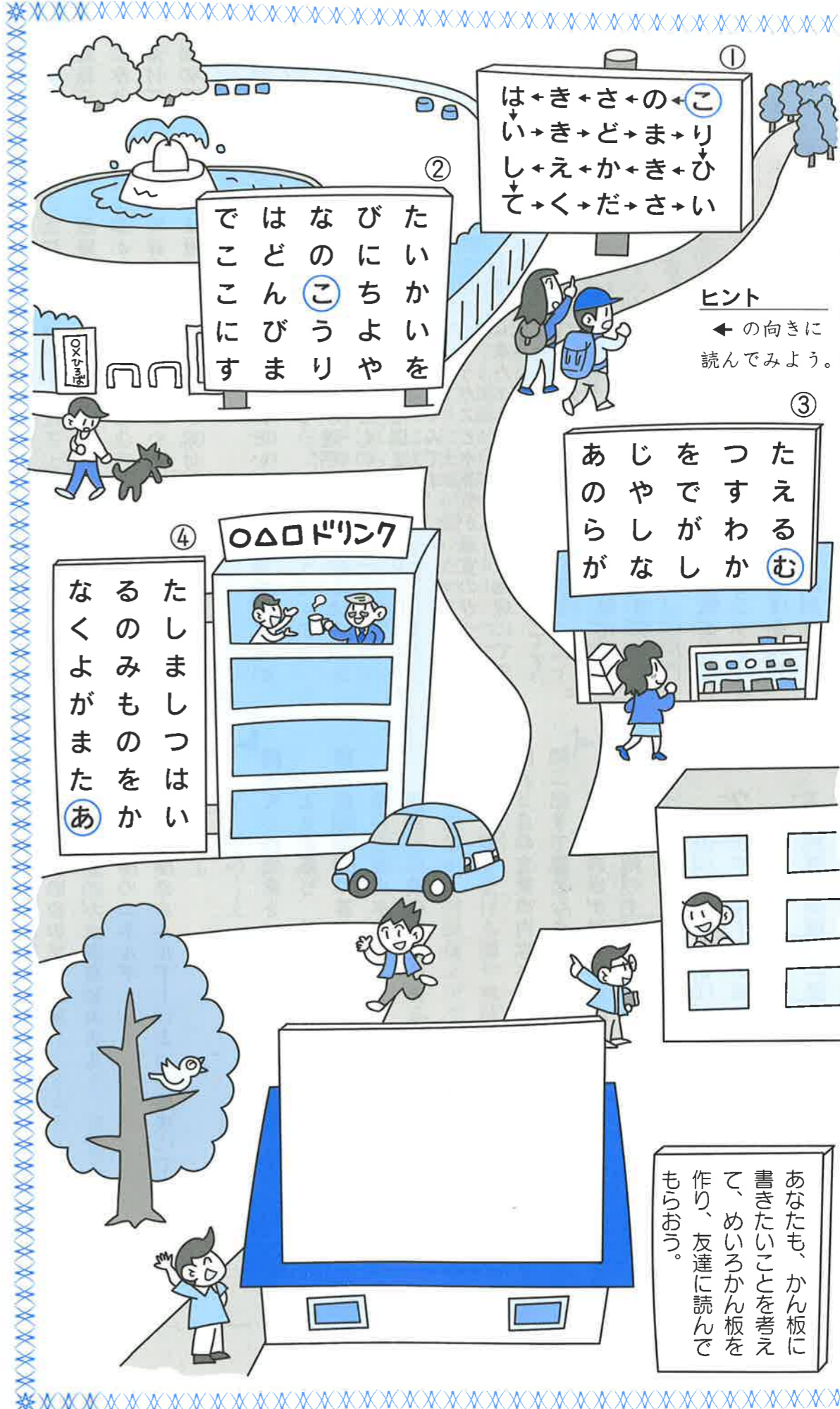
問六 この文章の内容と合っているものを次のアウエから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 海の水が増えて海面が一メートル上がったとしても、世界中の陸地のすべてが一メートル低くなるわけではない。
イ ニューヨークや上海は海岸沿いの都市だが、海の水が増えても街にあまり影響はない。
ウ 花や野菜を作る温室のしくみは、地球が温暖化するしくみとまったく同じである。
エ 地球の温暖化の原因である二酸化炭素の増加は、人間の活動と関係がある。

# あやしいかん板

あやしいかん板がならんでいます。○のついた字から始めて、ある方向に読んでいくと解読できます。

ヒント  
←の向きに  
読んでみよう。



あなたも、かん板に  
書きたいことを考え  
て、めいろかん板を  
作り、友達に読んで  
もらおう。

## 第11回

説明文②

### 地球環境のしくみ (2)



#### ことば・コトバ・言葉

#### ◆二字熟語の構成

熟語は、二つ以上の漢字が結びついて一つのことばになったものです。二字熟語の構成には、主に次の九つがあります。

- (1) 似た意味の字を重ねたもの  
例 道路(道||路)・回転・増加・安易
- (2) 反対の意味の字を重ねたもの  
例 高低(高↑低↓)・大小・進退・明暗
- (3) 上の字が下の字を修飾するもの  
例 新年(新しい↓年)・海底・他人・最初
- (4) 上の字が動作を表し、下の字が目的や対象を表すもの(下から上に返って読むと意味がわかるもの)  
例 帰国(帰る(動作)↑国に(対象))・読書・消火・着席
- (5) 上の字が主語で、下の字が述語になっているもの  
例 国立(国が(主語)↑立てる(述語))・雷鳴・市営
- (6) 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの(不・無・非・未などが上にくるもの)  
例 不足・無人・非常・未満
- (7) 意味をそえたり強めたりする字が下につくもの  
例 美化・整然・急性・私的・緑化
- (8) 同じ字を重ねたもの  
例 山々(「々」はくり返しの記号)
- (9) 長い熟語を省略したもの  
例 入試(入学試験を省略したもの)

漢字を書け。

胸	机	巻	腸	値	寸
月 10	木 6	尸 9	月 13	イ 10	寸 3
キヨウ むね むな*	キ* つくえ	カン まく まき	チヨウ	ねチ あた*	スン

- (1) スンポウをはかる。
- (2) 利用カチがある。
- (3) 二割ネビきする。
- (4) ダイチヨウの検査。
- (5) カントウに序文を書く。
- (6) うずをまく。
- (7) ツクエの上に置く。
- (8) キヨウイをはかる。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

調査の結果、地球の平均気温はこの一〇〇年間で約〇・六℃上がったことがわかった。このあとの一〇〇年間では、高ければ六℃も上がると予測されている。

- 1 じつは、六℃もあがると、たいへんなことになるのです。毎日の気温ならば、上がった日があれば下がる日もあります。また暑い夏、とか寒い冬、があっても、何年かのうちには平均的な気温になります。
2 しかし、地球温暖化による気温の上昇は、平均的な気温そのものが上がっていくので、影響がずっと大きいのです。つまり、気温が上がったままになって、動物や植物が生きていく環境を変えてしまうからです。
3 もちろん、暑かったり寒かったり、というばらつきは、これからもつづきます。しかし、地球全体の平均気温が数度上がるとなると、いろいろなどころに大きな影響が出てきます。
4 前にお話ししたように、二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします。
5 そうすると、まず、地表の温度が上がリ、地表の近くの空気が暖められて軽くなり、上昇気流が強くなります。海水の温度も上がり、蒸発する水の量も増えます。
6 すると、低気圧が大型になったり、強い台風がたくさん生まれるのです。低気圧も台風も、空気の上昇気流が作ったものです。そして生まれた強い台風は、海流とともに、赤道付近の熱を、赤道から温帯へ運びます。
7 これまでだったら、たとえば日本付近に近づいた台風は、やがて弱まっていった温帯低気圧になり、さらに弱くなって消えていくのが普通

通でした。

- 8 これは、台風のエネルギー源は暖かい海水から出る水蒸気をふくむ上昇気流ですから、海水の温度が低くなるにつれて台風が弱まってくるからなのです。また、台風が上陸したあと、急速に弱まるのは、水蒸気が上がらなくなることと、陸地との摩擦のためです。
9 しかし、温帯での海水の温度が高いと、台風が強いまま、陸地を襲うことになるのです。
10 エルニーニョ現象というのを聞いたことがありますか。これは太平洋の中央部を流れている海流の異変で、この現象が起きると、日本の近くの台風が増えるだけではなく、世界の広い範囲で気候が変わったり、魚の数や種類が変わったりするのです。いままでもときどき起きていましたが、地球が温暖化すれば、もっと増えるといわれています。
11 また、海水の温度が上がると、海からの水の蒸発量が増えます。これによって、いままでは、雨がさらに増えることになりました。多雨地域といわれるところほど大雨が降ることになるし、豪雪地域といわれる雪の多いところほど降雪量は増えるでしょう。そして、海水が増えて土地が低くなるでしょうから、洪水などの水害がいままで以上に増えることになるのです。

(島村英紀『地球環境のしくみ』)

- \* 1 上昇気流は上空に上っていき空気の流れ。雨や雪の原因となる。
\* 2 低気圧は周りに比べて、大気の圧力が低いところ。中心付近では雨が降ることが多い。
\* 3 温帯低気圧は温帯地方でできた低気圧。台風が温帯地方に入り、力が弱くなったときなどという。
\* 4 摩擦は二つのものがすれ合って、その動きが弱まること。
\* 5 豪雪地域は非常にたくさん雪が降る地域。

問一 この文章を、序論(問題提起)、本論(説明)、の二つの意味段落に分けたものとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 1 2 3 4 5 6 7 8 / 9 10 11
イ 1 2 3 4 5 6 / 7 8 9 10 11
ウ 1 2 3 4 / 5 6 7 8 9 10 11
エ 1 2 3 / 4 5 6 7 8 9 10 11

問二 線①「二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします」とありますが、この結果起きている現象は何とよばれていますか。文中から五字のことばを書きなさい。

問三 線②「上昇気流が強くなります」とありますが、上昇気流によって発生するものを二つ、文中からそれぞれ三字以内で書きなさい。

Grid for question 3 answer: [ ][ ] [ ][ ]

問四 線③「日本付近に近づいた台風は...さらに弱くなって消えていく」とありますが、地球の平均気温が数度上がると、台風はどのような状態で日本に上陸することになりますか。そのことが説明されている一文を文中からさがし、その初めの五字を書きなさい。

ぬきなさい。

問五 [ ]にあてはまることばを五字以上十字以内で答えなさい。

Grid for question 5 answer: [ ][ ][ ][ ][ ] [ ][ ][ ][ ][ ]

問六 この文章の内容と合っているものを次のア〜エから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球の平均気温が数度上がると、毎日の気温のばらつきはなくなる。
イ 地球の平均気温が数度上がると、強い台風が今よりもたくさん発生するようになる。
ウ 地球の平均気温が数度上がると、動物や植物が生きていく環境が変わり、その数や種類が変わったりする。
エ 地球の平均気温が数度上がると、海水の温度も上がって蒸発する水の量が増えるため、世界中で海水がさらに減る。
オ 地球の平均気温が数度上がると、大雨や豪雪の地域ではそれらの重さで土地がしずんで低くなり、洪水が増える。

Grid for question 6 answer: [ ][ ] [ ][ ]

ことば・コトバ・言葉

1 次の二字熟語の構成は、あとのア〜ケのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- ① 投球                      ② 売買                      ③ 生産
- ④ 不幸                      ⑤ 知的                      ⑥ 国民
- ⑦ 日銀                      ⑧ 人々                      ⑨ 県立
- ⑩ 学習                      ⑪ 非常                      ⑫ 美化
- ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

ア 似た意味の字を重ねたもの  
 イ 反対の意味の字を重ねたもの  
 ウ 上の字が下の字を修飾するもの  
 エ 上の字が動作を表し、下の字が目的や対象を表すもの  
 オ 上の字が主語で、下の字が述語になっているもの  
 カ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの  
 キ 意味をそえたり強めたりする字が下につくもの  
 ク 同じ字を重ねたもの  
 ケ 長い熟語を省略したもの

⑬	⑨	⑤	①
⑭	⑩	⑥	②
⑮	⑪	⑦	③
⑯	⑫	⑧	④

第12回

説明文2

地球環境のしくみ (3)



ことば・コトバ・言葉

◆三字熟語の構成

- (1) 二字熟語の上に新しい意味をそえる字がついたもの
  - 例 食生活 (食+生活)・不自然 (不+自然)
- (2) 二字熟語の下に新しい意味をそえる字がついたもの
  - 例 日本人 (日本+人)・必要性 (必要+性)
- (3) 三字がそれぞれ対等の関係で並んでいるもの
  - 例 市町村 (市+町+村)。「市」と「町」と「村」は対等の語

◆四字熟語の構成

- 四字熟語の構成の主なものは次のとおりです。
  - (1) 似た意味の二字熟語を重ねたもの
    - 例 完全無欠 (完全+無欠)・自由自在 (自由+自在)
  - (2) 対になる意味の二字熟語を重ねたもの
    - 例 有名無実 (有名+無実)・質疑応答 (質疑+応答)
  - (3) 上の二字熟語が主語で、下の二字熟語が述語になっているもの
    - 例 大器晩成 (大器は (主語) | 晩成する (述語))
  - (4) 上の二字熟語が下の二字熟語を修飾するもの
    - 例 不言実行 (不言で+実行する)
  - (5) 四字が対等の関係で並んでいるもの
    - 例 東西南北 (東+西+南+北)
- \*四字熟語には、一字一字の意味からでは熟語としての意味がわかりにくいものがあるので注意しましょう。



漢字をまじり。

宝	著	将	就	蚕	裏	俵	誠
ハ	ヤ	寸	尤	虫	衣	イ	言
8	11	10	12	10	13	10	13
ホウ	チヨ	シヨウ	ジュウ	サン	リ	ヒヨウ	セイ
たから	あらわす*		つくる*	かいこ	うら*	たわら	まこと*
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
コクホウに指定される。	チヨメイな作家。	シヨウライは有望だ。	会長にシユウニンする。	カイコから糸をとる。	ウラドオリを歩く。	コメダワラを積む。	セイジツな人なら。

次の(1)・(2)の右側の漢字のあとにはついて、左側の漢字のあとにはつかない漢字を考えてみましょう。

なつか	つか	なつか	つか
弱	強	陸	水
人	美	当	適
色	緑	用	急
質	悪	好	良
答え	答え	答え	答え

(1) ヒント 「的・性・化・然」のどれかがつくよ。  
 (2) ヒント 「的・性・化・然」のどれかがつくよ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。  
1 世界の各地の気温が上がると、まず、それぞれの場所で育つことができる植物がちがってきます。

2 たとえば日本でいえば、寒い北海道よりも、暖かい九州の方が、一般に、植物の発育がよいので、温暖化するのには、悪いことではないと思うかもしれません。しかし、そうではないのです。現在は、その土地の気温に適した、たくさん動物や植物が、おたがいに助け合いながら、バランスよく育っているのです。これが生態系というものです。  
3 それが、急に温度が変わると、生態系がくずれてしまい、大半の植物や動物は、減ってしまいます。ごく一部の、もっと高い温度をほしがっていた植物や動物だけが、増えることになりました。

4 たとえば気温が二℃上がることは、その土地が一五〇キロから五五〇キロほど、赤道のほうにずれたのと同じことになるといわれています。また、山地ならば、一五〇メートルから五五〇メートルもふもとのほうに下がったことになりました。植物は育つのに適した気温のほうに、だんだん移住していくのですが、成長が遅い植物では、この気温の移動に追いつかないことがあります。つまり、その植物は枯れて、その場所では絶えてしまうのです。

5 生態系が変わると、特定の植物しか食べない動物や昆虫は、生きのびられないかもしれません。たとえば、蝶の多くは幼虫が食べる食草というものがきまっています、それ以外は食べません。本州の里山に住むギフチョウという美しい蝶は、近ごろは数が減って心配されていますが、この幼虫はカンアオイという草の葉しか食べません。

6 漁業はずいぶん変わります。プランクトンの種類や量が変わり、寒

流の魚はずいぶんと減ることでしょう。農業も、作物の種類や収穫量がずいぶん変わります。これまでとれていた米がとれなくなってしまう地域が出てくるでしょう。

7 また、気候が変わることによって病害虫が発生しやすくなります。これも、農作物の生産を減らしてしまいます。

8 つまり、温暖化によって、ごく一部の場所では、農業生産が増えるでしょうが、ほかの大部分では、農業生産が減ります。つまり、地球全体の食糧生産が減ってしまうと考えられています。

9 動物たちの餌にも影響が出るでしょう。餌が不足して、ニワトリやウシ・ブタを飼いにくくなるかもしれません。また、乳牛はもともと夏は食欲がなくなり、牛乳を出す量が減るので、地球温暖化が進むと、肉や乳製品の値段も上がるでしょう。

10 そのほか、気温が上がることによって、川や海から蒸発する水分が増えます。そして、川や湖の水の量が減ったり、水の温度が上がるともあって、水質が悪くなったり、微生物が増えて、湖や池の富栄養化が進みます。いまでも、あちこちの湖や池に、アオコのような緑色の藻が増えて、魚などの生物が減ることがあるのを聞いたことがあるでしょう。あれが富栄養化なのです。

11 また富栄養化は、窒素化合物やリンなどの農業で使う肥料分や家庭で洗濯に使う洗剤の成分が水中に増えることも大きな原因です。

12 それだけではありません。地球が温暖化すると伝染病も増えるので、心配されています。伝染病はもともと熱帯地方に多い病気です。温帯地方にひろがる伝染病もありますが、熱帯地方の伝染病のほうが多いのです。

(島村英紀『地球環境のしくみ』)

\* 微生物はけんび鏡でなければ見えないような小さな生物。

問一 この文章を次の□内の四つの意味段落に分けるとしたら、どうなりますか。もっともよいものをあとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

- 第一段落 温暖化すると、生態系が変わる。
第二段落 温暖化すると、漁業や農業、らく農に影響が出る。
第三段落 温暖化すると、湖や池の富栄養化が進む。
第四段落 温暖化すると、伝染病が増える。

Table with 4 columns (A, U, I, E) and 12 rows of numbers 1-12.

問二 [4]段落の役割を述べたものとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア [3]段落の説明にあてはまらない具体例を示している。
イ [3]段落の内容について、さらによく詳しく説明している。
ウ [3]段落の内容について、筆者独自の考えを示している。
エ [3]段落とは別の新しい話題を示している。

問三 線①「蝶の多くは幼虫が食べる食草というものがきまっています」とありますが、ギフチョウの幼虫が食べる食草は何ですか。

問四 [9]段落について説明したものとしてみっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者の意見や感想を述べている段落。
イ すでに起こったことを、事実として示している段落。
ウ 事実に基づいて、今後考えられることを予測している段落。
エ 現在考えられていることが正しいかどうか、疑問を投げかけている段落。

問五 線②「あれ」が指している内容を文中から三十二字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

Blank boxes for question 5 answer.

問六 □にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア つまみ
イ それとも
ウ ところが
エ 一方

問七 線③「地球が温暖化すると伝染病も増えるのではないかと心配されています」とありますが、それはなぜだと考えられますか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

Blank boxes for question 7 answer.

じよば・「トバ」言葉

1 次の構成にあてはまる二字熟語をあとのア〜クからすべて選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 「〇+〇〇」―二字熟語の上に新しい意味をそえる字がついたもの

② 「〇〇+〇」―二字熟語の下に新しい意味をそえる字がついたもの

③ 「〇+〇+〇」―三字がそれぞれ対等の関係で並んでいるもの

- ア 天地人
- イ 新発見
- ウ 日本人
- エ 可能性
- オ 松竹梅
- カ 無関心
- キ 合理的
- ク 大勝利

2 次のA群とB群の熟語を組み合わせて、四字熟語を四つ作りなさい。

- A群
- 完全
  - 意気
  - 自由
  - 日進
  - 右往
  - 一石
  - 大同

- B群
- 深長
  - 月歩
  - 千秋
  - 小異
  - 自在
  - 一退
  - 無欠


第13回

詩

空・雑草

ねらい

詩とは、心に強く感じたことを、もっともふさわしいことばを用いて、リズムをもたせて表現したものです。

(1) 詩の種類…三つの観点から、次のように分けられます。

① 用語  
口語詩…現代のことばで書かれた詩。  
文語詩…昔のことばで書かれた詩。

② 形式  
定型詩…音数や行数に一定の決まりがある詩。  
自由詩…音数や行数などに決まりがない詩。  
散文詩…ふつうの文章の形で書かれた詩。

③ 内容  
叙景詩…自然の風景を中心にした詩。  
叙情詩…作者の感動を中心にした詩。  
叙事詩…歴史上のできごとや伝説などをうたった詩。

(2) 詩の持ちよう

① 行分け…作者の心のリズムで改行が行われます。

② 連…感動や内容によるまとまり。連と連の間は、ふつう一行あけてあります。

(3) 詩の味わい方

① 情景をとらえる…季節や時間、場所、作者の位置などをとらえましょう。

② 作者の感動をとらえ、主題をつかむ…表現技法にも注意しながら、作者の心情を考え、感動の中心をつかみましょう。



二字熟語が四つでできるように、□にあてはまる漢字一字を書こう。  
その四つの漢字を組み合わせると、どんな四字熟語ができるかな？

同		門
統	③	共
	流	情
		様

氣		育
身	④	安
	積	配
		情






漢字を書こう。

預
頁 13
あずける
あずかる

(1) 銀行にヨキンする。

紅
糸 9
くベクコウ
くれない*

(2) クチベニをつける。

磁
石 14
ジ

(3) ジリヨクを利用する。

尺
尸 4
シヤク

(4) 巻きジャクで測る。

仁
イ 4
ニ ジン

(5) ジンアイの心をもつ。

染
木 9
シミル*
そめる*
そまる*

(6) 布を青色にソめる。

誕
言 15
タン

(7) タンジョウ日のお祝い。

◆表現技法

詩には、感動の高まりをより効果的に表現するために、いろいろな方法が用いられます。主な表現技法と、その効果を覚えておきましょう。

(1) 比喻法……あるものを別のものにたとえて表現する技法です。たくみな比喻は、そのものの印象を強めます。主な比喻法には、次のようなものがあります。

① 直喩法(明喩法) ……「ようだ・みたいだ」などのことばを使ってたとえます。

例 綿のような雲。

(「ようだ(ような)」を用いて、「雲」を「綿」にたとえています。)

② 隱喩法(暗喩法) ……「ようだ・みたいだ」などのことばを使わずにたとえます。それとなくたとえることで、読む者に作者の思いをおしはからせるものです。

例 りんごのほお。

(「ほお」を「りんご」にたとえています。「ようだ」を用いてたとえるとすれば、「りんごのようなほお」といった言い方になります。)

③ 擬人法……人間でないものを人間であるかのように表現する技法です。

例 風がささやく。

(人間ではない「風」を人間であるかのように表現しています。)

(2) 体言止め(名詞止め) ……文末を体言(名詞→77ページ)で止めて、あとに味わいを残したり、リズムを生み出したりする技法です。

例 ああ、なんと**う**美しい。

(文末を「美しい」という名詞で終えています。)

(3) 倒置法……語順を入れかえて感動を強める技法です。

例 おいしいよ、このケーキは。

(ふつうの語順であれば、「このケーキはおいしいよ。」となります。)

(4) 反復法(くり返し) ……感動を強く表したり、リズムを生み出したりするために、同じ語句をくりかえす技法です。

例 この遠い道程のため

この遠い道程のため

(高村光太郎「道程」より抜粋)

(5) 省略法……文末や文中の語句を省略して味わいを生み出す技法です。

例 あ、あんな所に山田君が。

(「いる」などのことばが省略されています。)

(6) 対句法……意味と構成が対になる行や句を並べてリズムを生み出す技法です。

例 耳には鈴の音

ほおには秋風

(「耳」と「ほお」、「鈴の音」と「秋風」がそれぞれ対応していて、どちらも「…には」 という構成になっています。)

★文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

空 菊池敏子

こんなにもほがらかな空の どこに

綻びがあるというのだろう

いそいで繕いにゆかなくては――

とでもいうふうには

白い糸をつけた 銀の針のかたちして

ヒコキが飛んでゆく

空は きょう

わたしに気づかせたかったのだ

シンプルな演出で

思いもかけぬよい光景を目撃させ

どれほどのあいだ

わたしがあくせく

空を忘れて過ごしていたか

を

③ のどが渴きそうな 空の

まっさおな上機嫌に

感染してしまつたらしい

わたしの いちにち

\*1 綻びは糸でぬった部分がほどけたところ。ほつれ。

\*2 シンプルは単純な様子。簡単。

問一 この詩はいくつの連(まとまり)からできていますか。漢数字で答えなさい。

連

問二 線①「白い糸」、②「銀の針」は、それぞれ何をたとえていると考えられますか。漢字で書きなさい。

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

問三 線③「のどが渴きそうな……感染してしまつたらしい」とありますが、それまで作者はどうだったのですか。次の□□にあてはまることばを詩の中から書きぬきなさい。

過ごしていた。

問四 この詩で使われている表現技法を次のア〜オからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 倒置法
- ウ 反復法
- エ 体言止め
- オ 対句法

問五 この詩からわかる作者の思いを説明したものとしてみてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア いつもとちがった空の様子を見て心配になっている。
- イ 目を見はるようなきれいな空の様子を見ておどろいている。
- ウ 思いがけず気持ちのよい空の様子を見てうれしくなっている。
- エ 何もないやみのなさそうなくっきりした空の様子を見てうらやましく思っている。

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雑草

おおせき 松三郎

おれは雑草になりたくないな  
 だれからもきらわれ  
 芽をだしても すぐ [ ] しまう  
 やっと なっぱのかげにかくれて 大きくなったと思っても  
 ちよこつと こっそり咲かせた花がみつければ  
 すぐ「こいつめ」と [ ] しまう  
 だれからもきらわれ  
 だれからもにくまれ  
 \*たいひの山につみこまれて くさっていく

① おれは こんな雑草になりたくないな  
 ② しかし どこから種がとんでくるんか  
 取っても 取っても  
 よくもまあ たえないものだ  
 ③ かわいがられてる野菜なんかより  
 よっぱど丈夫な根っこをはって生えてくる雑草  
 強い雑草  
 強くて にくまれもんの雑草  
 \*たいひわらや落ち葉などを積み重ねてくささせたもの。肥料として使う。

問一 この詩を、用語と形式のうえから分類したものとしてよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩
- イ 口語定型詩
- ウ 文語自由詩
- エ 口語自由詩

問二 詩の中にある [ ] には同じことばが入ります。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア ひっこぬかれて
- イ 大切にされて
- ウ ほっておかれて
- エ 笑われて

問三 線①「しかし」より前とあとでは雑草に対する「おれ」の心情はどのように変化していますか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 前でも雑草に対して悪い印象をもっているが、あとではさらに悪い印象をもつようになっていく。
- イ 前では雑草に対して悪い印象をもっているが、あとでは雑草のしぶとさに気づき、少し見直している。
- ウ 前では雑草に対して良い印象をもっているが、あとでは野菜と比べておとると批判する気持ちになっている。
- エ 前では雑草に対して良い印象をもっているが、あとでは雑草をきらいようになっていく。

問四 線②・③に使われている表現技法を次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 直喩法
- ウ 倒置法
- エ 体言止め
- オ 反復法

まよめぶくこめじ

タイムテスト

(2)

月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 得点 \_\_\_\_\_

/100点

1 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。(各2点)

(1) 秘蔵のつぼを見せてもらう。

(2) 今日は妹の誕生日だ。

(3) 有名な作家。

(4) あの人は度胸がある。

(5) 劇的な逆転勝利だ。

(6) 裏道を通って帰る。

(7) 紅色の花がさいた。

(8) 蚕を飼う。

2 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

(1) この映画は見る力チがある。

(2) セイイをもって話し合う。

(3) 作文をヒヒヨウしあう。

(4) ショクヨクがない。

(5) 新聞社にシユウシヨクする。

(6) 足をコツセツする。

3 次の二字熟語の構成は、あとのア～オのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

- (1) 願望
- (2) 古城
- (3) 県立
- (4) 着陸
- (5) 収支
- (6) 時速
- (7) 接続
- (8) 想像
- (9) 利害
- (10) 市営

ア 似た意味の字を重ねたもの  
 イ 反対の意味の字を重ねたもの  
 ウ 上の字が下の字を修飾するもの  
 エ 上の字が動作を表し、下の字が目的や対象を表すもの  
 オ 上の字が主語で、下の字が述語になっているもの

4 次の [ ] に「非・不・未・無」のどれかを入れて、二字熟語を作りなさい。(各1点)

- (1) [ ] 当
- (2) [ ] 限
- (3) [ ] 道
- (4) [ ] 開
- (5) [ ] 来
- (6) [ ] 視
- (7) [ ] 利
- (8) [ ] 番



5 次の□に「然・化・性」のどれかを入れて、二字熟語を作りなさい。(各1点)

(1)	急	□	(2)	必	□	(3)	良	□
(4)	緑	□	(5)	美	□	(6)	平	□
(7)	油	□	(8)	雑	□			

6 次の三字熟語の構成は、あとのア～ウのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。(各1点)

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| (1) 逆効果  | (2) 衣食住  | (3) 非常識  |
| (4) 貯水池  | (5) 試写会  | (6) 大中小  |
| (7) 通学路  | (8) 表面的  | (9) 雪月花  |
| (10) 国際化 | (11) 有名人 | (12) 不可能 |

ア 「○+○○」——二字熟語の上に新しい意味をそえる字がついたもの

イ 「○○+○」——二字熟語の下に新しい意味をそえる字がついたもの

ウ 「○+○+○」——三字がそれぞれ対等の関係で並んでいるもの

(9)	(5)	(1)	(10)	(6)	(2)	(11)	(7)	(3)	(12)	(8)	(4)
-----	-----	-----	------	-----	-----	------	-----	-----	------	-----	-----

7 次の□に漢字を一字ずつ入れて、四字熟語を完成させなさい。また、その意味をあとのア～コから選び、( )に記号で答えなさい。(各完答2点)

(1) 右往	□	往	(2) 半	□	半疑
(3) 異い	□	同音	(4) 公明	□	大
(5) 十人	□	色	(6) 電光	□	火
(7) 有名	□	実	(8) 一日	□	秋
(9) 四苦	□	苦	(10) 絶	□	絶命

- ア 多数の人が、同じことを言うこと。  
 イ 評判ばかりで中身がともなわないうこと。  
 ウ やましいところがなく、正しくりっぱであること。  
 エ 一日が千年にも思われるほど、待ちどおしいこと。  
 オ 人の好みや考えは、さまざまであるということ。  
 カ あっちへ行ったりこっちへ来たりと、混乱すること。  
 キ 半分くらい信じ、半分くらい疑うこと。  
 ク とても短い時間。転じて、行動がすばやいこと。  
 ケ のがれられない困難な立場にあること。  
 コ たいへん苦しむこと。

ねらい

◆筆者の気持ちをとらえる

随筆文は、体験したり見聞きしたりしたことにもとづいて、考えたことや感じたことを、自由な形で書いたものです。

形式が自由なために、文章には筆者独特のものの見方・感じ方が表れやすく、また、表現にも独特のものが表れます。これらのことをふまえて筆者の気持ちを読み取っていきましょう。

(1) 文章を書くきっかけとなったことがらをとらえる  
どんなことがらもとらえて文章が書かれているかをおさえましょう。

(2) 心情を直接表す表現に注意する

「悲しい」「腹が立った」「うれしくなった」「喜びがこみあげてきた」など、心情を直接表したことはや表現に注意しましょう。

(3) 情景や行動などの表現から気持ちを考える

気持ちを直接言っていないくても、情景や行動、そのほかさまざまなことからの表現から、筆者の気持ちをうかがうことができます。

(4) 筆者のものの見方や考え方が表れていることばに注意する

「うれしい」「悲しい」などの心情だけでなく、筆者独特のものの見方や考え方がわかる部分にも注意しましょう。

第14回

随筆文

りんごの涙 (1)



漢字を書け。



遺 15 ヨイ\*  
イシツブツを届ける。

映 9 エイ  
うつつる  
はえる\*  
世論をハンエイする。

映 9 エイ  
うつつる  
はえる\*  
水面にウツった月。

簡 18 カン  
カンケツな文章。

廠 17 ゴゲン  
おこそか\*  
きびしい\*  
時間をゲンシュする。

廠 17 ゴゲン  
おこそか\*  
きびしい\*  
キビしくしつける。

創 12 ソウ  
ソウ  
つくる  
ドクソウ的な作品。

臨 18 リン  
リン  
のぞむ\*  
リンジ列車に乗る。

最後の夏休み (1)

P 5

- (1) 恩人
- (2) 自己
- (3) 降雨
- (4) 降
- (5) 洗練
- (6) 届
- (7) 提供
- (8) 供

P 8

【物語をつくろう】  
(省略)

P 6

【文章たんけん】

- 問一 イ
- 問二 水干
- 問三 イ
- 問四 エ
- 問五 源流の道をたどる最後のチャンス
- 問六 イ
- 問七 ア

解説

問一 9～10行目に「克ちゃんが火をおこして……他の荷物を片づけた」とあり、四人がてきぱきと行動していることがわかる。  
 問二 5～6行目に「みんなそろって、多摩川のはじまり、水干まで登るのだ」とある。  
 問三 二行前に「体調が万全なので、二郎はほっとした」とある。この文章は、二郎の視点から書かれている。  
 問四 16行目に「緊張したようすで心臓のあたりを押さえた」とある。  
 問五 克ちゃんが引っこしてしまつたため、近いうちにまた来ればよいというわけにはいかないのである。  
 問六・七 「わたし、先頭に行く」「もう水はないから、ここで飲んでいこう」などの、判断力や行動力のある久里のことに注目する。

最後の夏休み (2)

P 9

- (1) 商品券
- (2) 絹織物
- (3) 星座
- (4) 宣伝
- (5) 独奏
- (6) 点呼
- (7) 呼
- (8) 困

P 10

【文章たんけん】

- 問一 A イ B ウ
- 問二 四樹の足が 問三 ウ
- 問四 最初の一滴 問五 ア
- 問六 まだ四樹うがい
- 問七 イ→ア→オ→エ

解説

問一 A 川には「冷たい水」が流れていることから考える。  
 問二 四樹の足が 問三 ウ 「もう十分だと満足する」は、あてはまらない。四樹のペースが落ちたうえに、何度も休けいをとりながら登っているため、イもあてはまらない。エの「いらいらする気持ち」も読み取れない。  
 問四 「多摩川の子ども」や「多摩川の赤ちゃん」という表現から、川のはじまりを「赤ちゃん」と呼んでいることがわかる。また、目的地が多摩川の源流である「水干」であることもおさえる。  
 問五 「こくんとうなずいた」様子からは、元気が感じられないが、和也や久里のことに同意していることが読み取れる。  
 問六 直前に二郎の意見が具体的に書かれている。  
 問七 時間の流れと地名などの場所を表すことばに注意する。文章の後半では「笠取山に行くルートからはずれ」て、多摩川の水干をめざすことにしたことをおさえて、二郎たちが歩いたコースをとらえる。

P 12

【ことば・コトバ・言葉】

- |   |   |     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ① | ア   | ② | ウ | ③ | ウ | ④ | エ | ⑤ | イ | ⑥ | ア |
| 2 | ① | ロ・鳥 | ② | ウ | ③ | ウ | ④ | エ | ⑤ | イ | ⑥ | ア |
| 3 | ① | 口・木 | ② | ウ | ③ | ウ | ④ | エ | ⑤ | イ | ⑥ | ア |
| 4 | ① | イ   | ② | エ | ③ | ウ | ④ | ア | ⑤ | イ | ⑥ | ア |

【音】

- (1) 始終(終始)
- (2) 調査
- (3) 問答
- (4) 構想

P 13

- (1) 砂鉄
- (2) 砂山
- (3) 若者
- (4) 俳句
- (5) 政策
- (6) 承知
- (7) 発展
- (8) 頂上

P 14

〔文章たんけん〕

1 問一 エ

問二 イ

問三 多摩川の最初の一滴

問四 山の斜面・土・水神社・水神 問五 それまで

解説

問一 二郎は、「克ちゃん、ほら」と言っ、克ちゃんにコップをわたしている。克ちゃんは、「四樹ちゃん、水ためて飲みなよ」と、四樹にいちばん先に水を飲むように言っている。それを聞いた和也も「そうしなよ」と言っている。20行目の「久里までが、笑ってうなずいた」は、久里も克ちゃんや和也の考えと同じだったことを表している。エは文章の内容と合わない。

問二 「またいつか、克ちゃんに会えますように……」という四樹の思いは、そこにいるみんなの思いでもあり、お別れは、みんなにとつてつらいことだったのである。アは「もう二度と克ちゃんには会えない」、エは「四樹が、かわいそうだった」の部分がまちがいで、「四樹のお祈り」によって、多摩川の源頭に「着いた喜び」はうすれていないし、四樹のお祈りの内容を聞いて腹立たしいと思った人はいないので、ウもまちがいで、

問三 「この一滴」とは「多摩川の最初の一滴」のこと。

問四 この文章の舞台である「多摩川の源頭」に何があるかを文章全体から読み取る。

P 16

〔ことば・コトバ・言葉〕

- |   |     |     |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ① イ | ② オ | ③ キ | ④ ア | ⑤ カ | ⑥ エ |
| 2 | ⑦ ケ | ⑧ ク | ⑨ コ | ⑩ ウ | ⑪ ア | ⑫ ア |
|   | ⑦ ケ | ⑧ カ | ⑨ オ | ⑩ イ | ⑪ キ | ⑫ ア |
|   | ⑦ ケ | ⑧ エ | ⑨ ク | ⑩ オ | ⑪ イ | ⑫ ア |

1 (1) さんずい (2) ごんべん

解説

(1) 「液・漁・浴・波」 (2) 「訓・話・詩・証」

問五 「むつつり」は、口数が少なく愛想がないさま。

P 17

- (1) 背景
- (2) 晩年
- (3) 我
- (4) 内閣
- (5) 鉄筋
- (6) 筋道
- (7) 蒸発
- (8) 並

P 18

〔文章たんけん〕

1 問一 A ながく B 比較的短い

C 熱帯の気候 D 低温の気候

E ばさばさ F 粘り気

問二 長江流域

問三 日本でつくられた約二〇〇〇品種のイネ。

問四 ア 問五 イ 問六 ア

解説

問一 線①をふくむ段落からとらえる。「日本型のイネは……」 「それについて、インド型のイネは……」と、それぞれの特徴やちがいが述べられている。

問二 直前の文の「地域」を表していることは着目する。

問三 直前に「日本では約二〇〇〇品種のイネがつくられた」とある。この部分を使用してまとめる。

問四 「外米」とは、「国産」である日本型の米にたいして外国産のインド型の米のことを指している。インド型の米は日本人には「ロボロした歯触りで、うま味にとぼしく、不快な匂い」がすると感じられ、「下等米」と評価されていたのである。

問五 空らの前ではインド型の米が、空らのあとでは日本型の米が、それぞれ「下等米」と評価されていたという逆の内容が述べられているので、「逆接」の接続語「しかし」があてはまる。

問六 「このような米料理がおこなわれる地域」とは「インドから西側

P 20

〔わたしは〇〇です〕

のインド型のイネを栽培する地帯」のことであることをおさえる。この地域では「ブレン・ライスがないわけではないが、油脂をつかった料理法が主流」「塩や香辛料で味つけをし、しばしば野菜を加えて炊き、ピラフやパエリアとして食べる」とあるので、アはあてはまらない。

解説 ① わたしは太陽です。いつも大空の上から地球を照らしています。わたしの光ですべての動物や植物がいきいきと活動できると思うと、今日も一日がんばって地球を照らそうと思います。

P 21

- (1) 危機
- (2) 危
- (3) 呼吸
- (4) 憲法
- (5) 舌
- (6) 階段
- (7) 痛
- (8) 拡張

P 22

〔文章たんけん〕

問一 ① スパイスやハーブの香り

② おいしい食味をつくり出す

問二 見せる料理

問三 一九世紀の豪華

問四 造園法

問五 エ 問六 エ 問七 エ

解説

問一 線①・②をふくむ段落からとらえる。①「鼻で食べ(る)」

とは、料理を香り(嗅覚)でも味わうと考える特徴があること、

②「舌で味わう」は、食味(味覚)を大切にすること、

を、それぞれ表現していることをおさえる。

問二 「それ」は、具体的には「美しい食器を使用して、手のこんだ盛りつけ」で「食べものに美的な価値を付加した」料理のこと。これを筆者は「見せる料理」としている。

問三 直後に続く二文からとらえる。「食卓の上にバルテノン神殿やピラミッドを引っ越しさせてきたようなもの」「プラットホームや階段状の台をつくり、そのうえに料理を配置した」ものといった具体例が挙げられている。

問四 ヨーロッパの庭園は「幾何学的で、対称形に配置」「建築的」「人工的」、日本庭園は「非幾何学的、非対称形」「風景的」という、対照的な造園法(庭のつくり方)を比較している。

P 25

- (1) 権利
- (2) 収入
- (3) 収
- (4) 車窓
- (5) 混乱
- (6) 乱
- (7) 雑誌
- (8) 反射

P 26

〔文章たんけん〕

問一 A ア B エ

問二 a 設計 b 盛りつけ

c 一方からだけの視線を前提としている

問三 非対称形をしたさまざまな形

問四 食器に描かれた日本画風の絵。

問五 食器 季節性の表現が要求される

問六 ウ

解説

問一 A 空らの前の「日本の食事には季節性の表現が要求される」

ことが理由となつて、あとの「献立に季節性を表現するのが料理人の手腕とされている」という内容がみちびかれるので、

順接の接続語「そこで」があてはまる。

B 空らの前の「食器でも季節感を表現しなくてはならない」

を受けて、そのためにどのようなことがなされているかの例

があつて述べられているので、例示の接続語「たとえば」があてはまる。

問二 「庭園に面した家屋の特定の場所からながめたとき」と「一人前の膳の前に座った人物が、上方から見おろす視線」のどちらも「一方向からだけの視線を前提としている」ことをおさえる。

問三 段落の最初の一文に書かれている。

問四 直前の「日本の食器には、日本画風の絵が描かれている」を指

問五 空らの前で述べている「日本庭園の哲学を食卓のうえに実現させたものの例が空らのあとで述べられているので、「例示」の

接続語「たとえば」があてはまる。

問六 「シソの葉など野菜の小片をあしらう」場所はどこかを、指示語の直前からとらえる。

問七 エは、25行目以降の内容と合う。ア 見せる料理は「高級な日本料理にも家庭料理にも共通した特徴」ではなく、「高級な日本料理」の特徴。イ 「幾何学的で対称形を基本とした料理の盛りつけ方法」はフランス料理の職業的料理人ではなく「ほかのヨーロッパ料理」の原則にもつらぬかれている。ウ 「自然景観を象徴する」料理の盛りつけは、日本料理の特徴であり「世界中の職業的料理人」の特徴ではない。

P 24

〔ことば・トバ・言葉〕

1 ① イ ② ア ③ ウ

2 ① アう イい ② アおも イかさ

③ アつめ イひ

3 ① ア・エ ② ウ・オ ③ イ・キ ④ カ・ク

解説

駅前の公園のふん水の前

(メモは、五十音図の「あ行」を「か行」を二つというように表し、「あ段」を「い段」を2つというように表している。つまり、「14」

は「え」、「22」は「き」というように、それぞれ五十音に置き換えられる。メモをつなげて読むと、「えきまえのこうえんのふんすいのみえ」となる。)

示語に合う形にまとめる。

問五 直前の二文の内容は「料理の美学」が表れていること、例であることをおさえる。

問六 ウは、最後から二つ目の段落の内容と合う。ア 「歳時記」は料理人のために刊行されたわけではない。イ 「四方正面の対称的な盛りつけ」に合わせて日本の食器が製作されているのではない。

エ 「料理の系統」によって食器を使い分けられることがおこなわれる」

ため「和洋中の食器をそろえた日本の台所は、世界でいちばん食器の種類のおおい家庭の台所となっている」とある。

P 28

〔ことば・トバ・言葉〕

1 ① ① a イ b ア ② a ウ b イ c ア

2 ① ウ ② ア ③ イ

3 ① 計 ② 明 ③ 熱

解説

「あんない」|| 「あ」と「ん」がないと考える。並んだひらがなから「あ」と「ん」を消すと、左上から横に、「みぎはいきとまりひだりはやまますぐいくとみずうみ」|| 「右は行き止まり、左は山、まっすぐ行く」と湖」と読める。

P 37

- (1) 千
- (2) 千潮
- (3) 批判
- (4) 神秘
- (5) 忘
- (6) 秘密
- (7) 延長
- (8) 延

P 38

〔文章たんけん〕

1 問一 つまらない 問二 だめだよと吠えた。

問三 ワンの小屋の前 問四 ウ

問五 a 胸の中 b ワンのことはいつでも思いだせる

問六 ウ

解説

問四 パパのそのあとの話の展開から考える。

問五 a パパが「自分の胸」に指を当てながら「ここにある」や「こ

こにいる」と言っていることから考える。

問六 「マコトくんだって同じだよ……ずーっと」ということばは、「ぼ

く」がマコトを好きだということを、パパがわかったうえで発

言である。

P 40

〔小説・小説・言葉〕

1 (1) エ (2) ア (3) ウ (4) イ

2 (1) ア (2) エ

3 (1) ア (2) ア

辞書

① 書

② 箱

③ 園

④ 人

⑤ 利

⑥ 路

⑦ 車

⑧ 親(手・人)

⑨ 学

⑩ 題

P 41

1 (1) こうか (2) どうそう (3) けんり (4) つうかい

(5) すじみち (6) はげ (7) の (8) いただき

2 (1) 演奏 (2) 深呼吸 (3) 対策 (4) 開幕

(5) 秘密 (6) 危 (7) 供 (8) 訪

3 (1) エ・C (2) イ・B (3) ア・A (4) ウ・D

(5) あなかんむり (2) がんだれ (3) けものへん

(4) しかばね (5) おおがい (6) おいかんむり

(7) おおざと (8) えんによう (9) れんが(れっか)

(10) ぎょうがまえ

5 (1) ア公イ効 (2) ア織イ識

(3) ア招イ証 (4) ア官イ管

6 (1) ア版イ判 (2) ア往イ応

(3) ア追イ負 (4) ア降イ下

7 (1) ア着イ付 (4) ア話イ放

(2) ア着イ付 (3) イ

8 (1) アウ (2) ウオ

P 43

(1) 劇場 (2) 気骨 (3) 貯蔵 (4) 強敵 (5) 意欲

(6) 胃 (7) 孝行 (8) 姿

P 44

〔文章たんけん〕

1 問一 地球が温暖化する・南極や北極の陸地の上にある雪や氷

問二 〔段落〕 〔段落〕 〔段落〕

問三 ウ

問四 イ

問五 9〔段落〕

問六 エ

解説

問一 海の水が増える原因が説明されている〔7〕段落に着目する。

問二 国や地域の名前が書かれている段落に着目する。

問三 「熱が逃げていっています」という内容と、「熱(赤外線)を吸

収したり、吸収した熱をふたたび放出して地表にもどす」という

逆の内容をつなぐことばがあてはまる。

問四 直前に「熱の逃げるのをふせぐ」という意味で」とあることに着

目する。「熱の逃げるのをふせぐ」役目をするのは「温室のビニ-

ルやガラス(44行目)」である。37~38行目にも、二酸化炭素が

「温室のガラスやビニールの役目をして」とある。

問六 アは〔1〕段落の内容と合わない。イは〔6〕段落の内容と合わない。

また、〔10〕段落で、花や野菜を作る温室と地球温暖化のしくみ

は「厳密に言えばちがう現象」だと説明されているので、ウもま

ちがいがい。

P 46

〔あやしいかん板〕

① このさきはいきどまりひきかえしてください

② こんどのにちようびにここではなびたいかをやります

③ むかしながらのあじをつたえるわがしやです

④ あたまがよくなるのみものをかいはつしました

- P 47
- (6) (1) 寸法 (2) 価値 (3) 値引 (4) 大腸 (5) 巻頭  
 (7) 机 (8) 胸囲

〔文章たんけん〕

- P 48
- 1 問一 エ 問二 地球温暖化  
 問三 低気圧・台風 問四 しかし、温  
 問五 雨が多かったところ 問六 イ・ウ

解説

問一 この文章の話題は、地球全体の平均気温が数度上がると、いろいろなところに大きな影響が出る、ということであり、そのことが提示されている[1]~[3]段落が序論となる。続く[4]~[11]段落で、どのような影響が出るのかが具体的に説明されている。

問二 直後に「そうすると、まず、地表の温度が上がります」とあるので、地表の温度が上がる現象が何とよばれているのかをとらえる。

問三 「上昇気流」ということばに注意して文章を読む。

問四 [8]段落に「線③の理由が説明されている。続く[9]段落に地球の平均気温が数度上がった場合のことが説明されている。

問六 [3]段落に「暑かったり寒かったり、というばらつきは、これからもつづきます」とあるので、アはあやまり。エは[1]段落の内容と合わない。オは、雨や雪の重さで土地がしずんで低くなることは書かれていないので、合わない。

- P 50
- 1 ① エ ② イ ③ ア ④ ウ ⑤ カ ⑥ キ  
 ⑦ ウ ⑧ イ ⑨ ケ ⑩ ク ⑪ オ ⑫ エ  
 ⑬ ア ⑭ カ ⑮ キ

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) 性 (2) 化

- P 51
- (6) (1) 誠実 (2) 米俵 (3) 裏通 (4) 蚕 (5) 就任  
 将来 (7) 著名 (8) 国宝

〔文章たんけん〕

- P 52
- 1 問一 エ 問二 イ 問三 カシアオイ 問四 ウ  
 問五 湖や池に減ること 問六 ア  
 問七 熱帯地方

解説

問一 それぞれの意味段落のキーワード「生態系」「漁業や農業、らく農」「富栄養化」「伝染病」に着目して、文章のまとまりをとらえる。

問二 [4]段落の「たとえば」で始まる一文は、[3]段落の「温度が変わる」ということについて、具体的な数字を示してわかりやすく説明している。このように、[4]段落では、[3]段落の内容をわかりやすく補っている。

問四 [9]段落の各文は、文末が「〜でしょう」「〜かもしれません」と、予測を述べる言い方になっている。

問五 「あれが富栄養化なのです」という一文なので、富栄養化とは何かを説明されている部分を書きぬく。

問六 直前の「農業で使う肥料分や家庭で洗濯に使う洗剤の成分」が増えることを、「人間の活動の影響」と言いかえていることをとらえる。

問七 伝染病が多い地域が「熱帯地方」であることをとらえ、温暖化で「熱帯地方」がどうなっていくのかを読み取る。

〔ことば・コトバ・言葉〕

- P 54
- 1 ① イ・カ・ク ② ウ・エ・キ ③ ア・オ  
 2 完全無欠・自由自在・日進月歩・大同小異

警告 一心同体

①には「同」、②には「心」、③には「一」、④には「体」が入る。

- P 55
- (6) 預金 (7) 染 (8) 誕生
- (1) 預金 (2) 口紅 (3) 磁力 (4) 尺 (5) 仁愛

〔文章たんけん〕

- 1 問一 三(連) 問二 ① 飛行機雲 ② 飛行機
- 問三 あくせく 問四 ア・イ・エ 問五 ウ

解説

問三 「あくせく」は、仕事などに追われてせかせかしている様子。「上機嫌」な空と「あくせく」過「こす」「わたし」が対比されている。

問四 第一連「ほがらかな空」、第二連「空は……気づかせたかったのだ」で擬人法が使われている。また、第二連で倒置法が使われている。さらに、第三連の「わたしの いちにち」は体言止めとなっている。

2

- 問五 第三連に作者の思いがもつともよく表れている。
- 問一 エ 問二 ア 問三 イ
- 問四 ② オ ③ エ

解説

問一 この詩は、音数や行数に決まりがなく、現代のことばで書かれた詩である。

問二 2・7行目の「だからもきられ」などのことばから考える。

問三 「しかし」の前では、「雑草になりたくないな」といっているが、あとでは「取っても 取っても/よくもまあ たえないものだ」と、そのしぶとさに感心している。

問四 ②は「取っても 取っても」と、ことばをくり返している。

③は行の終わりが「雑草」という名詞(体言)で止めてある。

14 りんごの涙 (1)

- P 61
- (1) 遺失物 (2) 反映 (3) 映 (4) 簡潔 (5) 厳守
- (6) 厳 (7) 独創 (8) 臨時

〔文章たんけん〕

- 1 問一 〈二つ目〉 家に帰って 〈三つ目〉 思えばあれ
- 問二 うまく割れるだろうか、という不安 問三 おそろおそろ
- 問四 見届ける前・家に帰って 問五 エ 問六 ウ

解説

問一 「調理実習が終わるまでのこと」、「調理実習があった日、家に帰ってからのこと」、「その後のこと」の三つに分けられる。

問二 直後の一文に着目する。

問三 「ええい」には、思い切ったやる気持ちや様子が表れている。「おそろおそろ」は、こわがって、びくびくしながら事をする事。

問四 「目がうるむ」は、目に涙がにじむこと。

問五 目玉焼きを教えているときの母の会話文や様子から、むすめへの優しさや温かさをとらえる。

問六 調理実習での失敗で傷ついた「私」を、母が卵一個で明るい気持ちにしてくれて、料理に興味を持つきっかけを作ってくれたことを「魔法」といっているのである。調理実習での失敗について「幼い心にうけた傷は深い」といっているので、エはまちがいの。

P 59

1	ひぞう	(1)	(4)	どきょう	(2)	(5)	たんじょうび	(3)	ちよさくか
2	骨折	(6)	(1)	価値	(7)	(8)	げきてき	(6)	うらみち
3	ア	(7)	(2)	姿	(8)	(3)	かいこ	(4)	
4	ア	(8)	(2)	誠意	(7)	(3)	批評	(4)	食欲
5	エ	(9)	(3)	ウ	(8)	(3)	巻	(5)	就職
6	不	(10)	(4)	オ	(9)	(4)	エ	(6)	
7	性	(1)	(7)	イ	(10)	(4)	オ	(5)	
8	然	(2)	(8)	ウ	(11)	(5)	イ	(6)	
9	然	(3)	(9)	ア	(12)	(6)	ウ		
10	非	(4)	(10)	イ					
11	性	(5)	(11)	イ					
12	化	(6)	(12)	イ					
13	然	(7)		ア					

〔四字熟語で草野球〕

P 64

①	一	①	③	④	三
②	一	②	③	④	⑤
③	一	③	④	⑤	⑥
④	一	④	⑤	⑥	⑦
⑤	一	⑤	⑥	⑦	⑧
⑥	一	⑥	⑦	⑧	⑨
⑦	一	⑦	⑧	⑨	⑩
⑧	一	⑧	⑨	⑩	⑪
⑨	一	⑨	⑩	⑪	⑫
⑩	一	⑩	⑪	⑫	⑬
⑪	一	⑪	⑫	⑬	⑭
⑫	一	⑫	⑬	⑭	⑮
⑬	一	⑬	⑭	⑮	⑯
⑭	一	⑭	⑮	⑯	⑰
⑮	一	⑮	⑯	⑰	⑱
⑯	一	⑯	⑰	⑱	⑲
⑰	一	⑰	⑱	⑲	⑳
⑱	一	⑱	⑲	⑳	㉑
㉑	一	㉑	㉒	㉓	㉔
㉒	一	㉒	㉓	㉔	㉕
㉓	一	㉓	㉔	㉕	㉖
㉔	一	㉔	㉕	㉖	㉗
㉕	一	㉕	㉖	㉗	㉘
㉖	一	㉖	㉗	㉘	㉙
㉗	一	㉗	㉘	㉙	㉚
㉘	一	㉘	㉙	㉚	㉛
㉙	一	㉙	㉚	㉛	㉜
㉚	一	㉚	㉛	㉜	㉝
㉛	一	㉛	㉜	㉝	㉞
㉜	一	㉜	㉝	㉞	㉟
㉝	一	㉝	㉞	㉟	㊱
㉞	一	㉞	㉟	㊱	㊲
㉟	一	㉟	㊱	㊲	㊳
㊱	一	㊱	㊲	㊳	㊴
㊲	一	㊲	㊳	㊴	㊵
㊳	一	㊳	㊴	㊵	㊶
㊴	一	㊴	㊵	㊶	㊷
㊵	一	㊵	㊶	㊷	㊸
㊶	一	㊶	㊷	㊸	㊹
㊷	一	㊷	㊸	㊹	㊺
㊸	一	㊸	㊹	㊺	㊻
㊹	一	㊹	㊺	㊻	㊼
㊺	一	㊺	㊻	㊼	㊽
㊻	一	㊻	㊼	㊽	㊾
㊼	一	㊼	㊽	㊾	㊿
㊽	一	㊽	㊾	㊿	
㊾	一	㊾			
㊿	一	㊿			

ラーメンズ

やきそば

ラーメンズ 14点

やきそば

17点